

# 第5部

## 区の将来像

---

### 1 策定の経緯

### 2 区の将来像

- ・ 沢区
- ・ 大出区
- ・ 八乙女区
- ・ 下古田区
- ・ 上古田区
- ・ 中原区
- ・ 松島区
- ・ 木下区
- ・ 富田区
- ・ 中曽根区
- ・ 三日町区
- ・ 福与区
- ・ 長岡区
- ・ 南小河内区
- ・ 北小河内区

### 3 区と町の連携について



第5次振興計画の推進にあたっては、地域コミュニティの核となる区の役割は重要です。また、人口減少時代を迎えても区の歴史や文化、区独自の行事による人のつながりなどを守るために区の維持、活性化が必要不可欠です。

そこで、第5次振興計画の策定に当たり、町全体でまちづくりの基本理念や目指す町の将来像等を共有し、まちづくりを推進していくため町内全区で区の将来像を作成しました。

## (1) まちづくり地区懇談会

区の将来像の策定にあたり、町政に対する町民の率直な意見を伺い、まちづくりの参考にするため、まちづくり地区懇談会を開催しました。

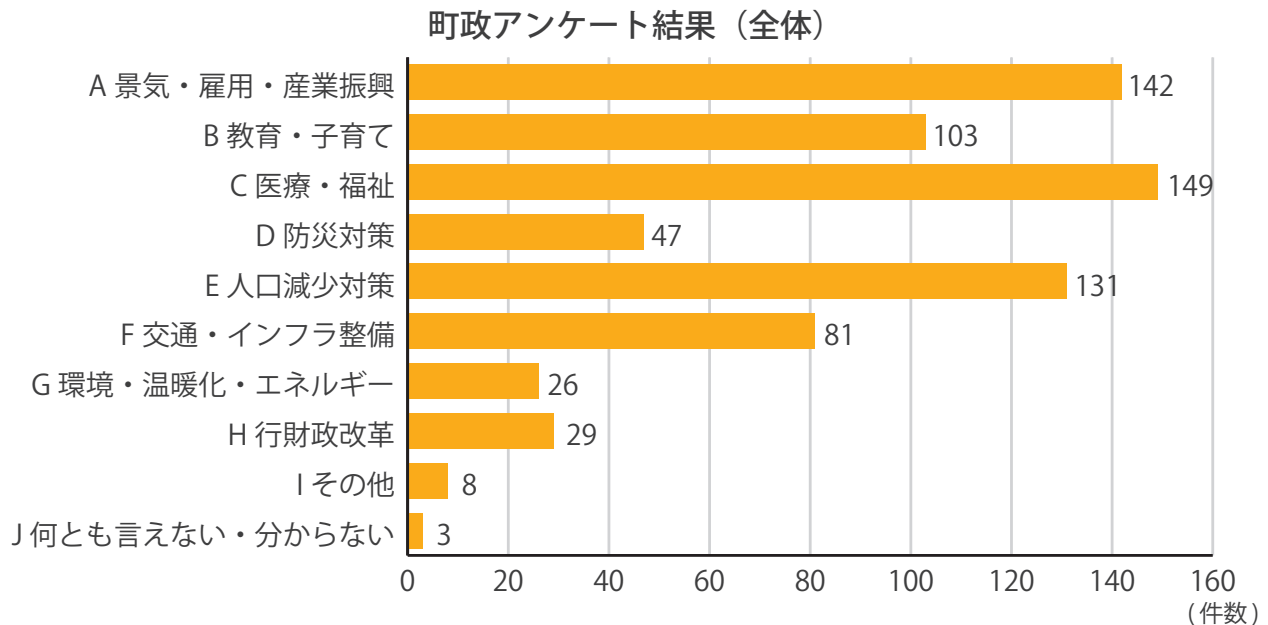
### ◎まちづくり地区懇談会開催日程及び参加者数

開催地区	開催日時	参加者数
福与区	4月9日(木) 午後7時～8時45分	50人
中原区	4月17日(金) 午後7時～8時35分	23人
八乙女区	4月20日(月) 午後7時～8時35分	18人
中曽根区	4月21日(火) 午後7時～8時30分	25人
北小河内区	4月30日(木) 午後7時15分～9時	43人
松島区	5月13日(水) 午後7時～8時45分	54人
下古田区	5月14日(木) 午後7時～8時30分	32人
上古田区	5月16日(土) 午後7時～8時40分	36人
木下区	5月18日(月) 午後7時～8時40分	62人
南小河内区	5月19日(火) 午後7時～8時40分	25人
大出区	5月20日(水) 午後7時～8時40分	27人
沢区	5月22日(金) 午後7時～8時45分	57人
長岡区	5月27日(水) 午後7時～8時30分	30人
三日町区	6月2日(火) 午後7時～8時40分	22人
富田区	6月3日(水) 午後7時～8時30分	20人
参加者合計		524人

## 町政アンケート

まちづくり地区懇談会では、参加者に対して、振興計画で特に重視する分野について、県政アンケートの設問を参考にアンケート調査を実施しました。

町全体の調査結果では、医療・福祉分野が1番高く、2番目に景気・雇用・産業振興、3番目に人口減少対策が続いています。



## （2）各区での策定作業

8月から、まちづくり地区懇談会の意見、提言、町政アンケートの結果を基にした、各区の現状や人口将来予測などを把握し、町内全区で区の将来像の検討を始めました。各区の人口将来予測は、平成22年（2010年）～平成27年（2015年）の実績による移動率を用いた人口推計を採用し作成しています。

検討にあたり、行政ができることと、区でできることなど役割分担を明確にして、それぞれ課題整理や目指す区の方向性（キャッチフレーズ等）、主な取り組みを検討し、第5次振興計画の基本構想を踏まえた区の将来像を完成させました。



各区での策定作業の様子

## (1) 区の将来像

## 沢区

歴史と伝統を受け継ぎ、  
次世代の若者が育つ 沢

## 富田区

豊かな自然と癒しの風景に  
区民が集う 富田

## 大出区

豊かな自然、肥沃な大地、  
恵まれた立地に歴史が息づく 大出

## 中曽根区

伝統と自然の中で  
みんな笑顔に 中曽根

## 八乙女区

区民の絆が暮らしをつなぐ  
心触れ合う 八乙女

## 三日町区

活力とふれあいが  
明日をつなぐ 三日町

## 下古田区

伝統を育み子どもも大人も  
みんなが輝く 自然豊かな 下古田

## 福与区

伊那谷を一望する  
ぬくもりの里 福与

## 上古田区

皆で一緒に楽しもう！ 上古田

## 長岡区

健やかに暮らせる  
自然と歴史に育まれた 長岡

## 中原区

やさしさが、  
みんなを家族にできる里 中原

## 南小河内区

古から伝わる伝統と築き上げた  
暮らしやすさを未来につなぐ 南小河内

## 松島区

人や地域の個性を尊重し 未来ある  
安心と安全の暮らしを創る 松島

## 北小河内区

地域が輝き笑顔あふれる 北小河内

## 木下区

大樹のもとに集い  
世代を超えた絆でつながる 木下

## (2) 区の将来像の見方

- 「キャッチフレーズ」は「区の将来像」の内容をまとめたものです。
- 「区の将来像」は意見交換で出された現状・課題から、10年後の区のあるべき姿を想定して作成しました。
- 「現状把握」では懇談会で出された意見やアンケートを参考にしながら、区で出来ることについて、現状と課題から検討を行ない作成しました。
- 「将来予測」は、町全体の移動率実績型（2025年に24,100人）とほぼ同様の作業により人口を予測しました。移動率については、各区の平成22年（2010年）～平成27年（2015年）の人口移動の実績から算出しています。
- 「課題整理」については「現状把握」の中から特に課題とすべきものをまとめました。
- 「主な取組み」は「課題整理」に合わせて、取り組むべき事柄をまとめました。

区の将来像

沢区は、地域の守り神としての<sup>ふきはら</sup>路原神社を代表に、歴史を大切に伝えてきた地域です。書庫には過去からの重要な資料が保管され、区の生い立ちや習慣を共有してきました。公民館には110代に及ぶ歴代区長の名札が掲げられ、区政も120年を超えるなど、人のつながりと歴史を大切にしてきたことが伺えます。

私たち沢区では、これまでも人と人が顔を合わせて話し合い、共に活動してきました。そして、先人が築き上げた歴史や伝統を次世代に伝え続けてきました。今後、少子高齢化等の新たな時代を迎えても、次世代に引き継ぐための力を保つことが出来ると信じています。

私たちは、これからも常会や組の活動を基本に、人と人が顔を合わせ、対話する機会を大切にするとともに、その活動を通じて人材を育てます。

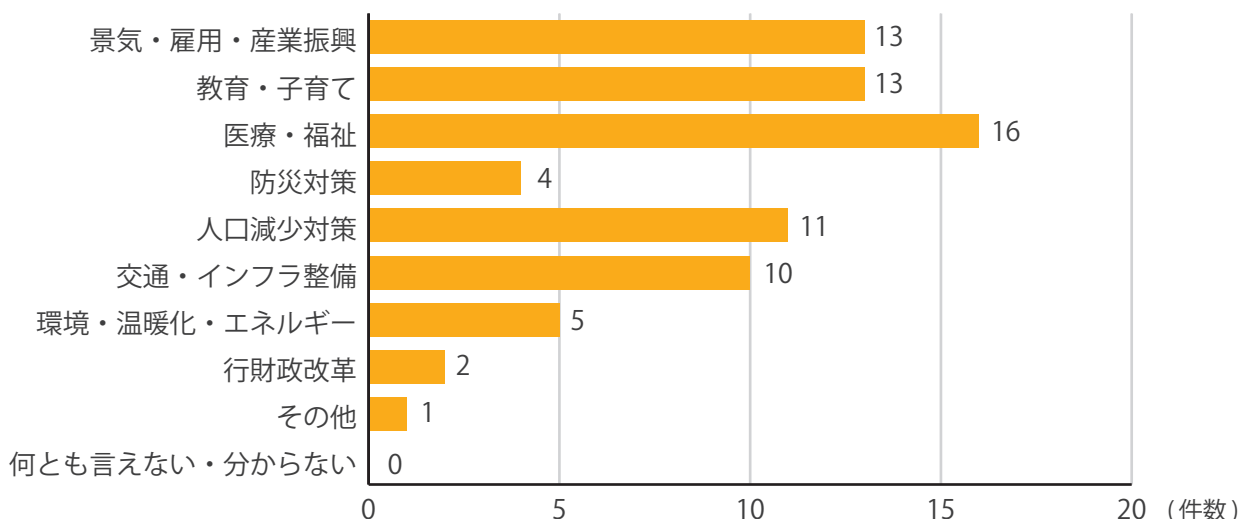
現状把握

人口：4,146人・高齢化率：25.1%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
生活道路、排水路の整備について	○	○			
区、常会への加入促進について		○	○		
通学路の安全確保について		○			
行政だけに頼らない住民によるまちづくりについて			○	○	
ふるさと納税の充実と活用について		○			
中心市街地の活性化について		○			
下水道受益者負担金の増額について		○			

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

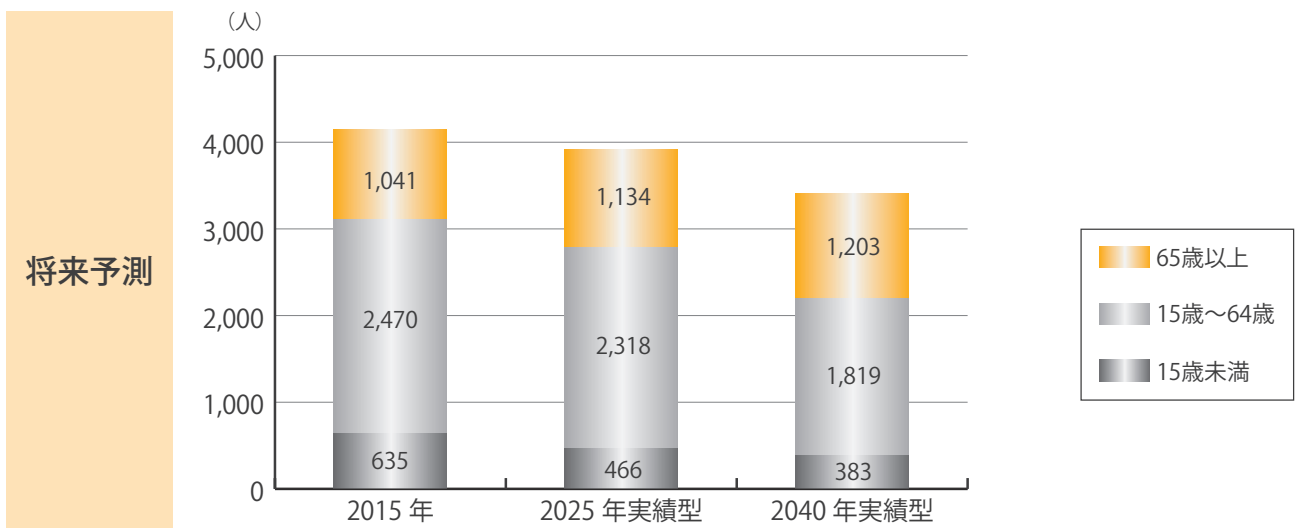
- ・ 書庫に沢の古い資料があり、昔は区民が勉強し、情報を共有していた
- ・ 出不足金制度がなくても、区活動へ参加する意識が高い
- ・ 運動会は多くの人に参加できるよう工夫している
- ・ 新しく入った人との交流ができ、次世代に伝統を伝える力がある
- ・ 沢が発展したのは最近だが、古くからの取組みが続いている
- ・ 親分肌のベテランが活躍し、区のルールやマナーを次世代に伝えている
- ・ 地域継続のための人材育成を目的に、青年部（長田）が出来た
- ・ 沢や山作業などの活動は、普段は顔を合わせない人との良い交流の場

#### ○課題

- ・ 行事の内容がきちんと伝わっておらず、区民と一緒に活動する機会も減少
- ・ 常会の行事が衰退しており、小さい常会や組は役職や行事が負担に感じられる
- ・ 高齢化や核家族化で常会に入らない人が増えた（高齢化を理由に常会を脱会してしまうケースもある）
- ・ 伝統的な区の取組みが次世代に伝わらないケースがある（リーダー的な人の有無で違いが出てしまう）
- ・ 最近では、アパート住まいの方などに沢のやり方が伝わらない
- ・ 各種のサークルの維持が人材不足等で困難になっている

#### ○区としてできる取組み

- ・ 新しく区に入る人とも心地よく付き合える雰囲気づくり
- ・ 常会などで月1度でも顔を合わせ話をする
- ・ 区会役員への女性の登用（参加の環境づくり）
- ・ 各種サークルの維持
- ・ 常会や区の活動を通じて、区の取組みや習わしを次の世代に伝える
- ・ 親分肌のベテランが元気に活動できること
- ・ 区の守り神としての<sup>ふきはら</sup>落原神社での行事



将来予測

課題整理

- 区の歴史や伝統が、人材不足や一緒に活動する機会の減少により、次世代に継承されない場面が増加している
- 交流の機会がある一方で、参加者が固定化する傾向がある
- 高齢化や核家族化の影響を受け、区の役員や行事が負担と感ずる場合もあり、常会未加入者が増加

主な取組み

- ・ 自然に対話が生まれ、次世代が育つ機会をつくるため、これまでも常会等で続けてきた話し合いの場を大切にします
- ・ 年齢や性別にかかわらず、活動には区民全員が参加できるよう工夫します
- ・ 高齢化や核家族化が進んでも区や常会との関わりを保つため、役員業務や共同作業等の負担軽減など、新たな仕組みを検討します

# 大出区

豊かな自然、肥沃な大地、  
恵まれた立地に歴史が息づく 大出

## 区の将来像

大出区は、1200年前の奈良・平安時代頃から続く歴史ある地域です。この地の豊かな自然と肥沃な大地は、様々な産業の立地としても恵まれています。明治38年に大出出身の丸山友弥氏を中心に設立された“有限責任大出購買組合”は、農協の前身として地域の発展を助け、中箕輪農協設立の礎となるだけでなく、全国の農協運動の先駆けとなりました。

私たちは、先人が築いた奥深い歴史と豊かな自然のもと、隣近所と助け合いながら、地域の文化を育んできました。高齢化の進行が予想される新たな時代に対しては、恵まれた産業立地という貴重な資源を活かした産業の構築や、年代を超えた交流により、力ある地域づくりに挑戦していきます。

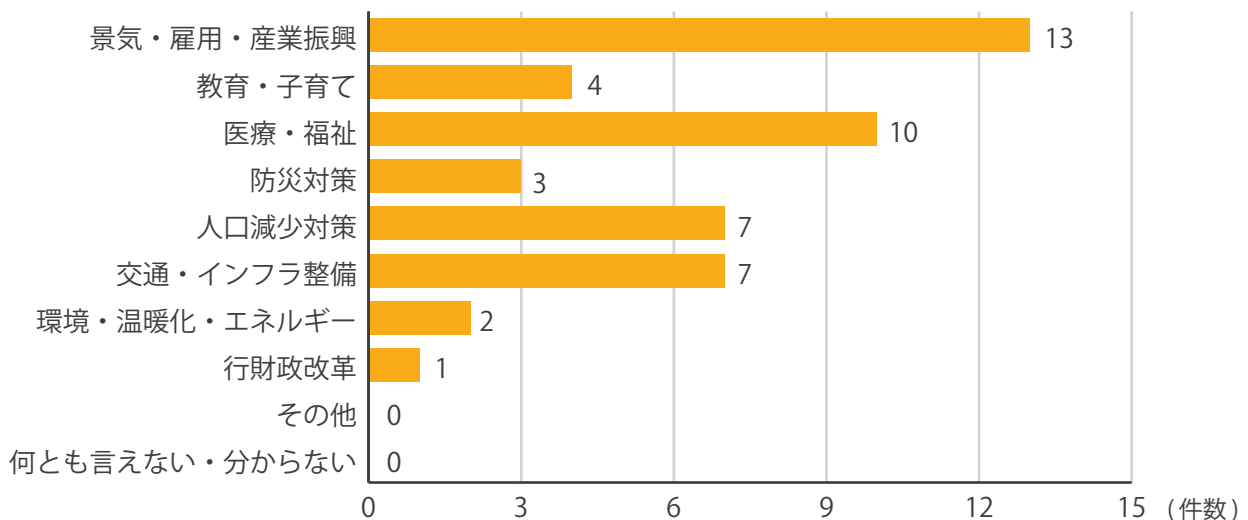
## 現状把握

人口：2,168人・高齢化率：26.4%（2015.4.1現在）

### ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
住宅の増加と消火栓・防火水槽の整備について		○			
にこりこ、たべりこ、観光農園の活用について		○	○		
沢保育園の建替えについて		○			
幹線道路の路面改良について	○	○			
県の補助金や町の補助金について	○	○			
若い女性の定住対策について		○			

### ②町政アンケート





### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

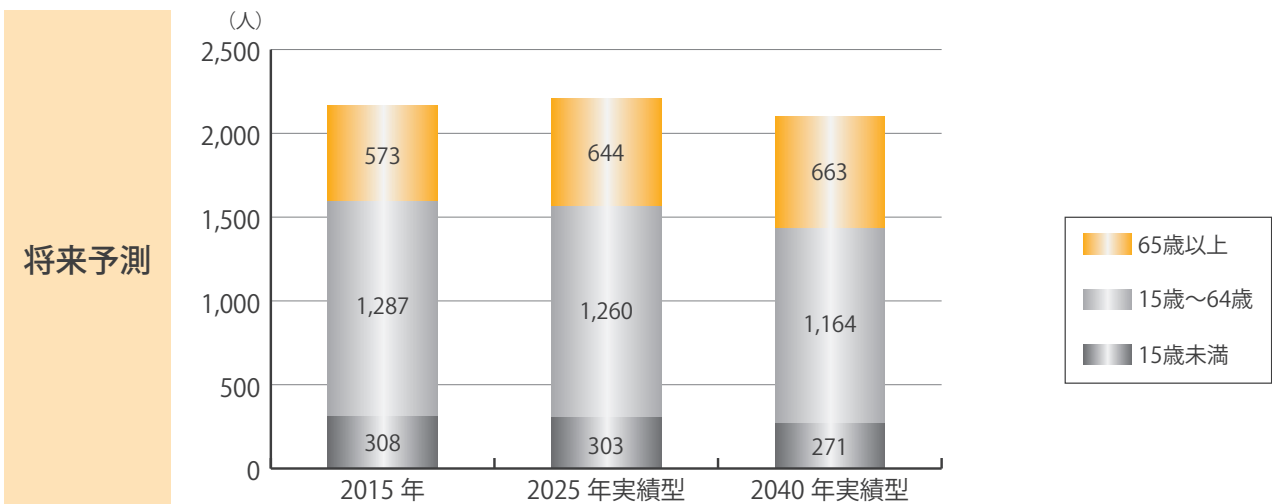
- ・二つの地区が一つになった歴史がある
- ・地域ごとに特色ある寺子屋の活動
- ・勤務体系やライフスタイル、価値観の変化
- ・奈良・平安時代から中道遺跡には 74 戸ほどの集落跡が確認されて現在に至る
- ・豊かな自然と肥沃な大地、商工業等の立地に恵まれ、昔から農業が盛んで、どんな作物も栽培でき、最近では果樹栽培も盛ん（産業が育つ要素は十分）
- ・専業農家は数軒で、大半は兼業農家
- ・半数を超える転入者が新しい文化を持ち込んで融合した
- ・毎月 19 日に実施している合同会が、区の考え方や取組みを全戸に伝達し、区議会を通じて区民意見の集約機能もある
- ・新しい人に土地を託す懐の深さがある

#### ○課題

- ・新しい住宅地が増え、区内の組割り世帯構成がアンバランス
- ・高齢化に伴い区の役務の負担感が増加
- ・区の面積が広いと、コミュニケーションが不足しがち
- ・高齢化の進行と後継者不足
- ・行事やサークル活動の活動低下とマンネリ化、中高生とその親世代の参加減少
- ・肥沃な土地でなんでも栽培できるが、個々の農地面積が小さく、特産品がない
- ・水がない地域で大火災害も多かった
- ・同じ世代が一時期に増加したことで高齢化が一気に進む
- ・高齢化を理由に区に入らない人が増えた
- ・区の活動の意味や内容が伝わらず、人とのつながりも希薄化してきた

#### ○区としてできる取組み

- ・歴史に学び、ともに手を取り合って支え合う
- ・人の付き合いを深くするコミュニケーションの場を設ける
- ・産業が育つ要素である肥沃な大地を守り、活用する
- ・毎月 19 日の組長合同会の継続



将来予測

課題整理

- 地形や世代間の区民間のコミュニケーションづくりに工夫が必要
- 地域によっては、同世代の集中が顕著なところもあるため高齢化の進行が速い
- 肥沃な大地や産業に適した立地を活用した地域づくり

主な取組み

- ・区人口が大幅に増加したなかでも、工夫しながらコミュニケーションづくりを進めた経験を今後の区民間交流に活かします
- ・急激な高齢化が進んでも、住みやすい大出区であるために、区役員のあり方や役務の負担軽減等を検討します
- ・豊かな自然や肥沃な大地等の恵まれた立地を活かし、新たな産業の醸成を図るとともに移住先として選ばれる地域を目指します

### 区の将来像

八乙女区の歴史は古く、五輪遺跡等に見られる縄文時代中期まで遡ります。室町時代には既に「八乙女」という地名で呼ばれ、江戸時代から続く正八幡社は通称「お宮の森」として、長年に渡って区民を見守り続けています。

近年では、八乙女区誌の発刊や、「史跡歴史マップ」を設置するなど、八乙女区の歴史や文化は現在も脈々と私たちに受け継がれています。

私たちの暮らしは、古くから暮らす区民と、この地に移り住んだ区民とが共に手を取り支え合い、この地を慈しむことにより育まれてきました。

私たち八乙女区民は、先人たちにより培われた自然や文化を守り、行事や活動を通じて歴史ある八乙女区の習わしを後世に伝えるとともに、世代を超えた絆を深め、暮らしの中で人がつながる区を目指します。

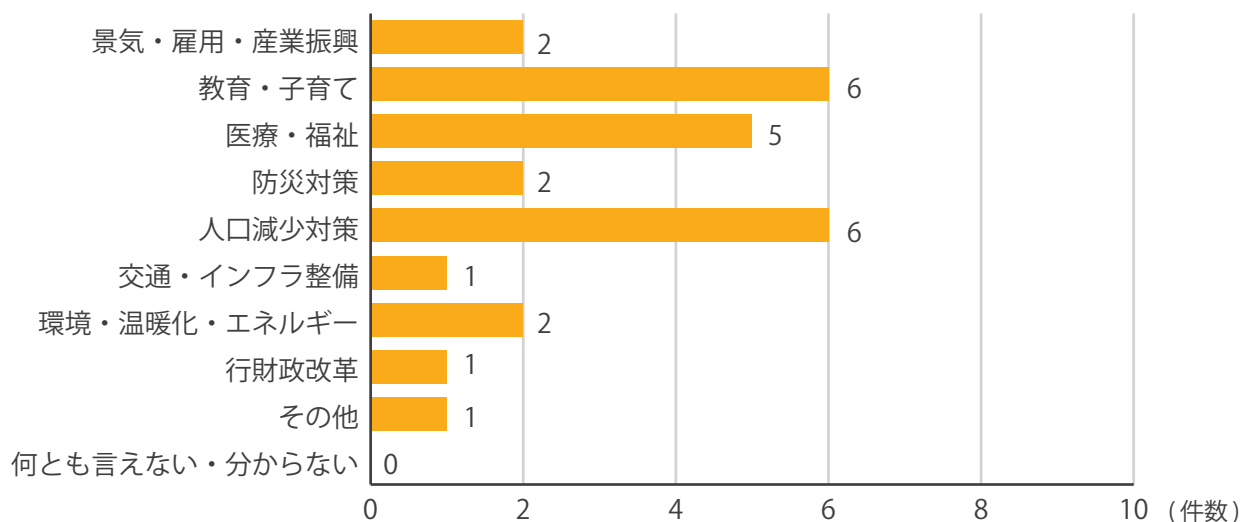
### 現状把握

人口：504人・高齢化率：23.9%（2015.4.1現在）

#### ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
人口減少対策のための先進地視察について		○			
団塊の世代の移住促進と高齢者の活躍について		○			
介護施設の誘致と雇用の創出について		○			
人口減少対策のための公共料金の見直しについて		○			
休日保育等保育サービスの内容の充実について		○			
萱野高原の観光資源としての活用策について		○			
第5次振興計画の基本的な考え方について		○			
区内グラウンドの夜間照明について			○		

#### ②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

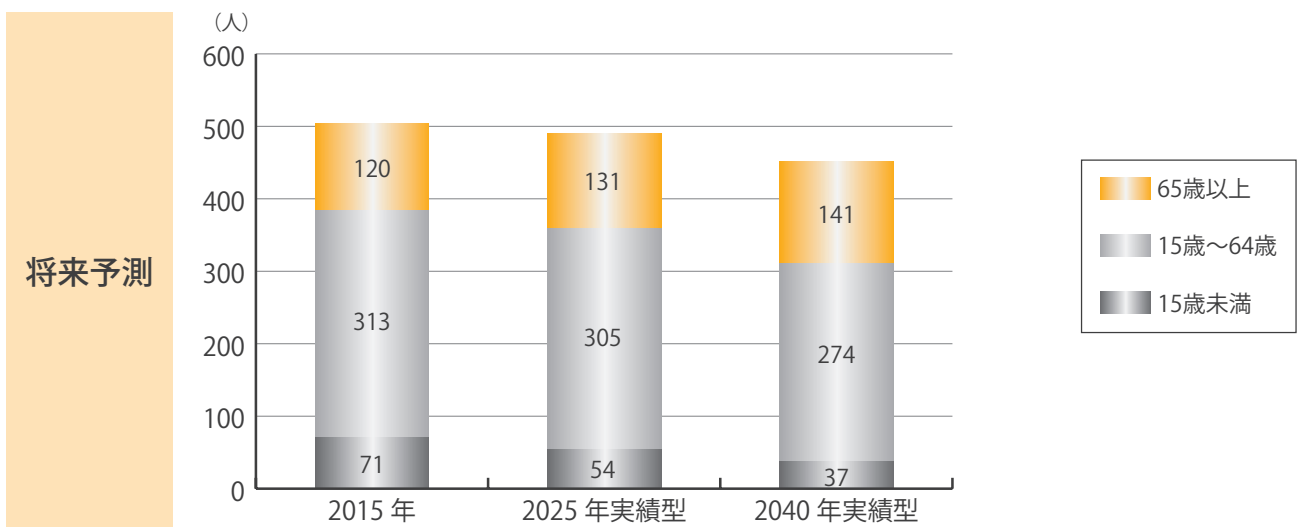
- ・4年に1度の行事をローテーションで実施し、運営側も楽しんでいる
- ・4年に1度でも経験を伝える工夫がある
- ・帰省客も参加して行われる納涼祭は盛況
- ・おいでなんしょなど高齢者の集まりを実施している

#### ○課題

- ・毎年同じ行事を実施するとマンネリになる
- ・行事が多いと、毎年だとやり切れない
- ・施設を汚したくないので頼みにくい
- ・伝統を継承する機会の減少
- ・伝統を知る人の減少
- ・高齢者の集まりに男性が出てこない

#### ○区としてできる取組み

- ・4年に1度の行事にすることでマンネリ化を防ぐ
- ・帰省した方が参加できる行事を、交流のきっかけにしたい
- ・大人も子どもも参加できる伝統を継承する行事を開催
- ・高齢者の集まりを継続し、参加出来る仕組みを検討したい



#### 課題整理

- 伝統技術や文化を継承する機会が減少し、地域の伝統・文化の継承が困難
- 人口減少・少子高齢化による区活動への影響と、毎年同じことを行う行事のマンネリ化
- 高齢者が住み慣れた場所で、寄り添っていきいきとした生活出来るよう地域ぐるみの支援が必要

#### 主な取組み

- ・行事、寺子屋、区史等を通じて区の習わしを後世に伝えます
- ・八乙女オリンピックに代表されるように、質を落とすことなく課題を解決した工夫を区政全体に活かし、他の地域の模範となる取組みを目指します
- ・地域ボランティア活動の継続と高齢者等を温かく包み込むような活動の取組みを目指します

区の将来像

下古田区は、天竜川西側の高台に位置し、町内の中でも南アルプスや中央アルプスを眺めるのに絶好のビューポイントが多くある地域です。

区内には、町の天然記念物でもある白山神社の社叢を始めとする良好な樹林や、町内では下古田区だけに確認されているヒカリゴケなどが残り、自然の豊かさや安らぎを感じることができます。

区では、ほぼ全戸が参加するお正月の賀詞を述べる会を始め、ほんだれ様や万灯といった伝統的な行事を長く受け継いできました。

最近では人口減少の影響で、豊かな自然を体験する機会が減ったり、行事を継続することが難しくなっています。今後は、少子高齢化がさらに進行すると見込まれているため、行事の継続ばかりでなく、区の体制維持が極めて難しい状況も予想されます。

私たち下古田区民は、これまで受け継がれてきた行事や資源を活用できるよう、知恵と工夫により継続、保全等を図ります。そして豊かな自然の中で区民同士がつながり、子ども達が元気に育ち、誰もが歳をとっても健やかに暮らせる区を目指していきます。

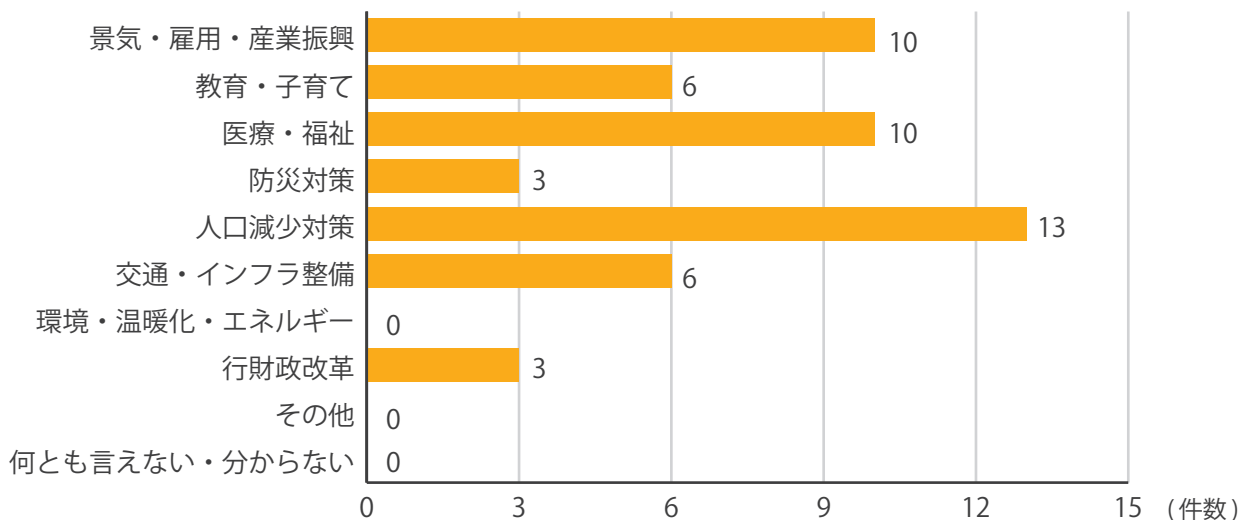
現状把握

人口：320人・高齢化率：36.0%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
町道の拡幅や道路側溝の改良について		○			
農地や農家の併合について		○			
高齢化率の上昇と、常会加入等地域のつながりについて		○	○		
人口社会増のための政策について		○			
Uターンと若者に魅力あるまちづくりについて		○			
消防団員の確保について			○		

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

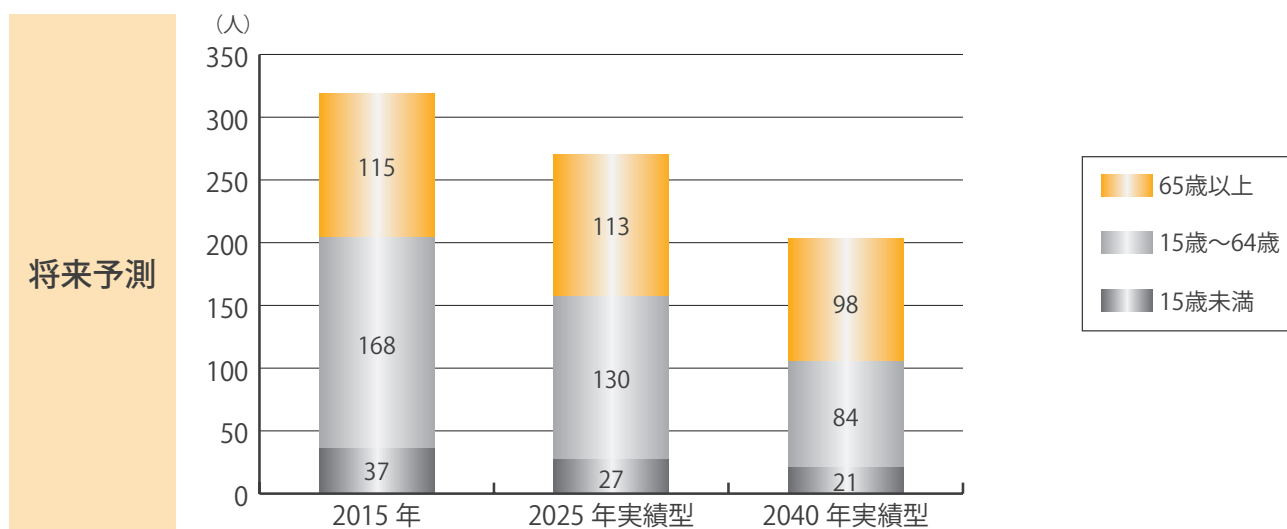
- ・高齢者で知らない顔はいない
- ・小さい子ども同士で遊ぶことが少ない

#### ○課題

- ・自然の豊かさが減少し、川遊びなどの自然とのふれあいが困難
- ・耕作放棄地がある
- ・子どもが少なく、リーダーの不在や主体性のなさが心配
- ・役員・消防団員の確保、区の事業継続、区の体制維持
- ・働く場所が少ない
- ・空き家が増加している
- ・観光施設の利用やイベントの充実
- ・一人暮らしの高齢者が増加

#### ○区としてできる取組み

- ・子ども達へ自然の豊かさを伝えること
- ・耕作放棄地を利用した自然体験
- ・一人暮らしの高齢者の安否確認
- ・ふるさと納税を絡めた産業振興
- ・行事をやれるところまでやる
- ・オープンカフェなどの新たな取組みへの協力



#### 課題整理

- 現在の区の体制維持がきわめて難しい
- 行事継続の困難さによる区民同士の交流機会の減少
- 自然や景観などの資源や耕作放棄地の利活用

#### 主な取組み

- ・区の体制維持のため、区行政のあり方について検討します
- ・内容等の工夫によって行事を継続し、高齢者や子どもも含めた区民の交流機会を維持・創出します
- ・区内の資源や耕作放棄地を利活用できるよう、区内の魅力を再発見し、区民で共有します

区の将来像

上古田区は、広大な里山を背景に、美しい山々を望める風光明媚な地域です。里には古くから地域のよりどころとなっている古田神社や、県選択無形文化財である古田人形が受け継がれています。

豊かな自然資源や文化資源を活かした活動も盛んです。活動を通じ、赤そばやハナモモ、カタクリ、アサガオなど、里の美しさを演出し、上伊那地域でも多くの人々が訪れて楽しめる場所となりました。

私たちは、自然と文化が地域の活動によって守られ、受け継がれたことを知り、後世の区民にも同じような豊かさを伝えるため、先人が工夫してきた上古田にあったやり方に磨きをかけ、みんなが一緒に楽しめる古田の里をつくります。

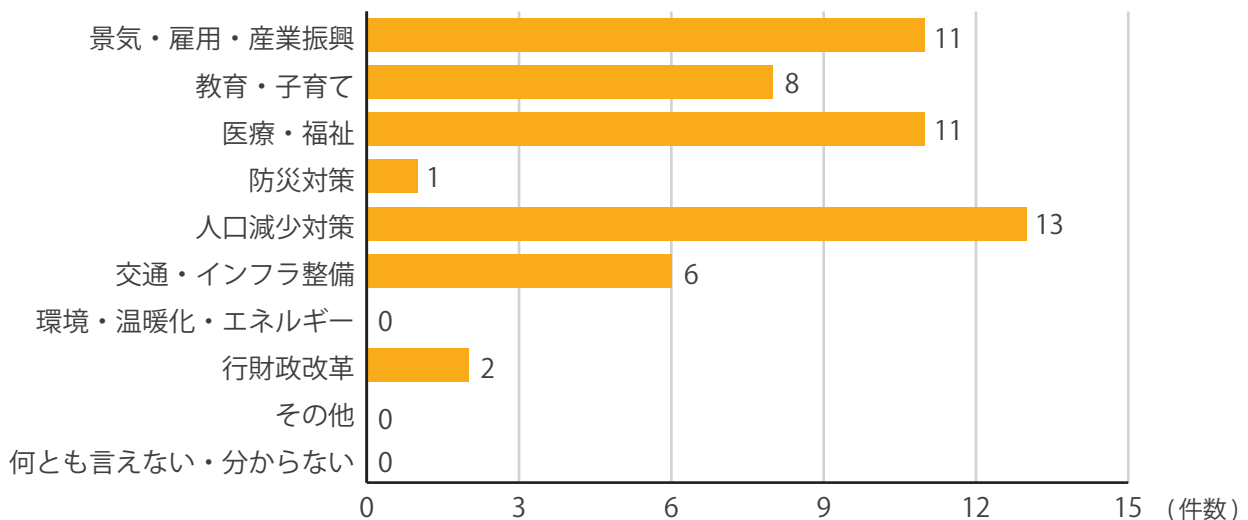
現状把握

人口：752人・高齢化率：30.9%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
小学校通学区の見直しについて		○			
みのわ祭りへの区の参加について		○	○		
県道の安全対策について	○	○			
町営住宅の整備について		○			
公衆トイレの設置等について		○			
地域団体の継続について		○	○		
公民館の耐震化について		○			
町有林の整備について		○			

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

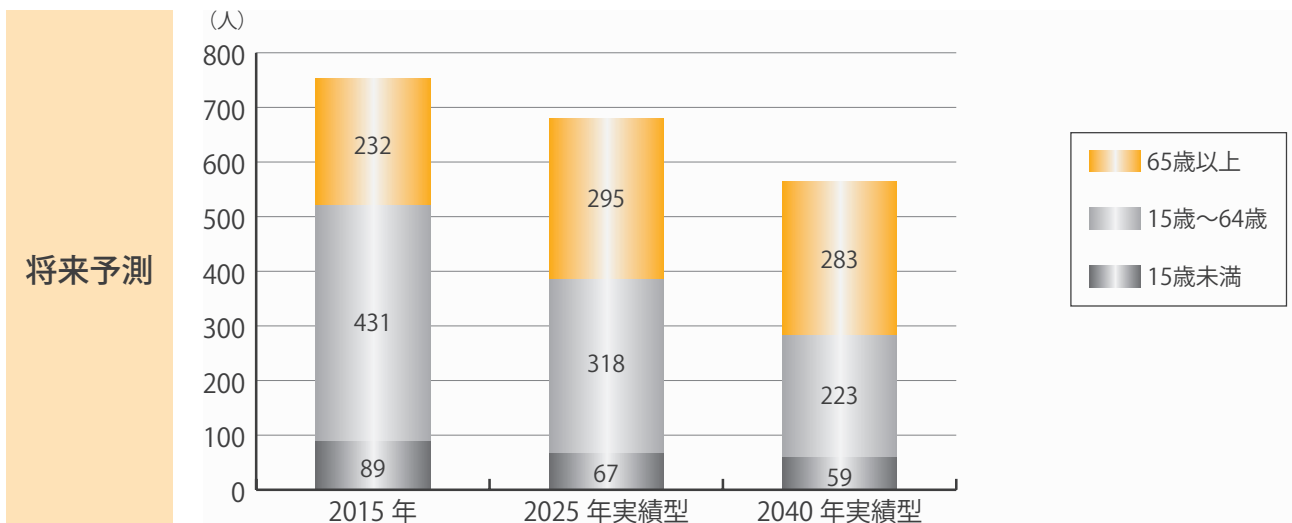
- ・自然が豊かで空気も澄み、西山からの山々の眺望は、距離もほど良く絶景
- ・環境が良く（花桃や赤そばなど）、保育園と小学校が区内にある
- ・上伊那の観光スポットになっている
- ・土地が安い
- ・伝統的に続いた行事を時代に合わせて工夫している（常会対抗運動会など）
- ・江戸中期から続き、県選択無形文化財の古田人形がある
- ・整備された農地、100haを超える区有林、帯無川などの貴重な水源地を有す
- ・区議会は濃い付き合いができ、屋号や区民の人柄、区の慣習が自然と分かる
- ・人柄が温和で、高齢者も元気
- ・自主的に様々な活動が行われており、それぞれにリーダーがいる
- ・ボランティア活動が盛んで、高齢者の参加も多く、交流も盛ん
- ・そば文化がある（美味しい蕎麦が採れる…名人がいる）

#### ○課題

- ・人数不足、高齢化、後継者不足などで区の役員が何度も回ってくる
- ・役割を担うと、区を知ることでわずらわしさは少なくなるが、反面負担が増える
- ・若い世代（40歳代未満）が、区政に対して興味が弱く行事以外には消極的で、区のことを考える意識がない（子どもがいないと交流する機会も少ない）
- ・PTAとして参加していても、区への参加に結びつかず、切り替えがスムーズにできない（子育てが終わると自分のことに夢中で区に興味が無くなる）
- ・若い世代には、区の役などを負担に感じ区から出てしまうことがある

#### ○区としてできる取組み

- ・若い人が区の活動に参加できることを工夫し、若いうちから底辺を広げる
- ・区の役割を担うことが、自分だけではなく子どもたちのためでもあることを知り、交流が宝物になる工夫
- ・一緒にやろう！と言える雰囲気づくりと、上古田ならではの新しい楽しみの発見



- 課題整理
- 区の人口が少なく高齢化も進行しているため、将来の役員の負担増が懸念
  - 若者世代は自分たちに関わりのある行事しか参加しないため、区政への関心が薄い
  - 貴重な文化遺産や豊かな自然を将来につなぐことが必要

- 主な取組み
- ・人口が減っても上古田ならではのやり方を後世につなぐため、役割や行事等のあり方を検討します
  - ・区民それぞれのライフスタイルや価値観を考慮しながら区政への関心が高まるよう、参加しやすい行事を目指します
  - ・貴重な文化遺産や豊かな自然を有効に活用し、これまでの活動に、団体間の連携や協力等も加えながら、新たな楽しみを見つけます

区の将来像

中原区は箕輪町のほぼ中央に位置し、農地や帯無川沿いの林地が、緑豊かな風景を形成しています。

中原区は、他の区と比べ人口規模が小さいため、小回りが良く区民のまとまりのある区です。一方で最近、価値観やライフスタイルが多様化してきたため、顔の見えるお付き合いが徐々に難しくなっています。

時代が変わっても、中原区ならではの小回りの良さ、まとまりの良さを大切にして、子どもからお年寄りまで、お互いを気遣うやさしい気持ちを育てていくことが望まれます。

緑多き中原区は、小回りの良さを活かした様々な人との交流等を通して、お互いを支え合う「互助」「共助」を生み、やさしさをみんなで創り、区民みんなが『家族』といえる地域を目指します。

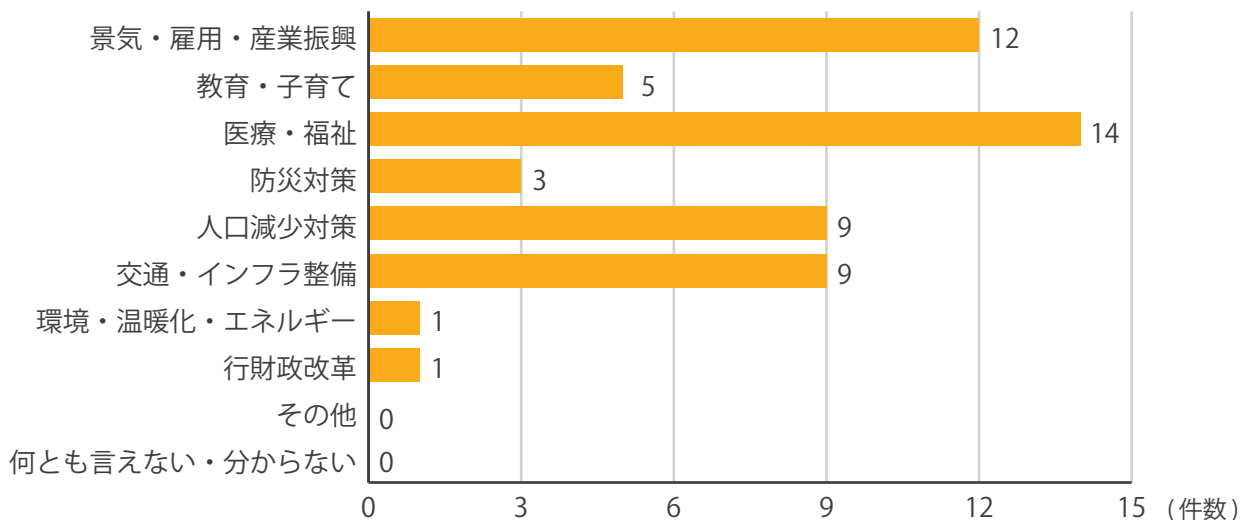
現状把握

人口：345人・高齢化率：20.9%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
町道 377 号線の整備について		○			
河川改良の地元負担金について			○		
信号機の設置について	○	○			
区費の負担について			○		
中央道バス停駐車場の路上駐車対策について		○			
機械化センターの利活用について		○			
企業誘致について		○			
産科医院の誘致について		○			
常会加入の促進について			○		
常会の改編について		○	○		

②町政アンケート





### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

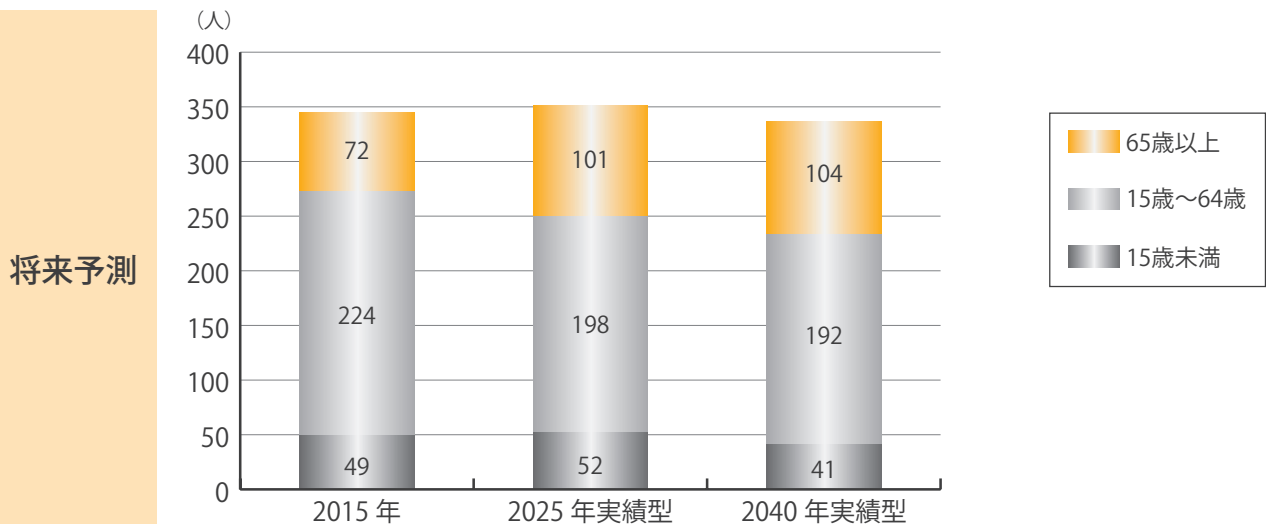
- ・元氣なお年寄りが多く、若い世代や子どもたちも活動の場を求めている
- ・良くも悪くも区の役職を務めると区民の情報が自然と分かる
- ・納涼祭や山・河川整備が、良い交流の場となっている
- ・小回りが良く回転しやすさ（行事のやりやすさや、情報の浸透しやすさなど）があり、外の人を受け入れる雰囲気がある
- ・小規模区ならではの人の距離の近さや、顔の見えやすさがあり、まとまりやすい
- ・「中原の未来を考える会」を発足し平成 27 年度検討を始めた
- ・昔と今では子どもの育て方も違い、育児の悩みを抱える人も多い
- ・万燈を復活し、文化の伝承を行っている
- ・区の行事に協力する任意の団体が活動している（親和会など）

#### ○課題

- ・隣組のお付き合いも希薄化が進み、思いやりの気持ちはあるが、形にならない
- ・人口が少なく、役員の負担が大きい。また区費も高い
- ・地域への満足度は高いが、人口増に結びついていない
- ・若い世代の求める交流が無くなり、結婚すると他地区に出てしまう（同年代の交流や近所付き合い）
- ・核家族化や価値観の違いなどで、育児相談のできる人が周りにいない
- ・人口減少、高齢者世帯の増加等で、区の機能の低下が心配される
- ・小回りの良さ、動きやすさが活かされていない
- ・準区の皆さんとの交流が希薄…組への加入も進んでいない
- ・区も、準区を別に扱ってしまっており、顔も見えず、声もかけづらい

#### ○区としてできる取組み

- ・互いに助け合いの気持ちをもってコミュニケーションすること
- ・区の行事や仕組みなどの見直しや区内活動団体との連携
- ・若い人の気持ちを受け入れる体制づくり
- ・過去にとらわれない柔軟な発想で、新入区民が馴染みやすい風土づくり



#### 課題整理

- これまでに培った小回りの良さやまとまりの良さが、高齢化の進行等により継続できなくなる可能性がある
- 高齢者の増加や人口減少により、区役員の負担が増加
- 異なる世代や転入者（おもに準区）との交流が希薄

#### 主な取組み

- ・小回りの良さやまとまりの良さを活かし、高齢者を支えあう仕組み等を整えます
- ・区役員の負担を見直すなど、区の役割分担等を検討します
- ・子育て世代やお年寄りの世代、在来者（正区）や転入者（準区）など様々な人が集まって、中原の未来を考えます

区の将来像

松島区は、上伊那郡で唯一の前方後円墳である松島王墓古墳があり、1,400年以上もの歴史を持つ地域です。江戸時代の宿場町の発展や明治時代以降の公共機関や商店等の集中によって、町の政治・経済等の中心的機能を担うようになりました。今でも小中学校などの公共施設があって利便性に優れていることもあり、町人口のおよそ4分の1にあたる6,000人以上の方が暮らしています。松島区には、これまでも多くの方が移り住んできましたが、核家族化等でニーズも多様化しているため、39の常会では工夫を重ねて交流を続けてきました。また、保育園等、子どもを通じたお付き合いも大切にしています。

一方で昔ながらのご近所付き合いや、世代を超えたつながりも弱まっているため、今後は地域から孤立する高齢者世帯等の増加も懸念されます。

私たちは、常会の独自性を尊重し、多様な主体の活動を大切にしながら区のみとまりを作り上げ、町との連携も進めます。そして、子どもからお年寄りまで安全安心で、楽しみながら暮らせる地域を目指します。

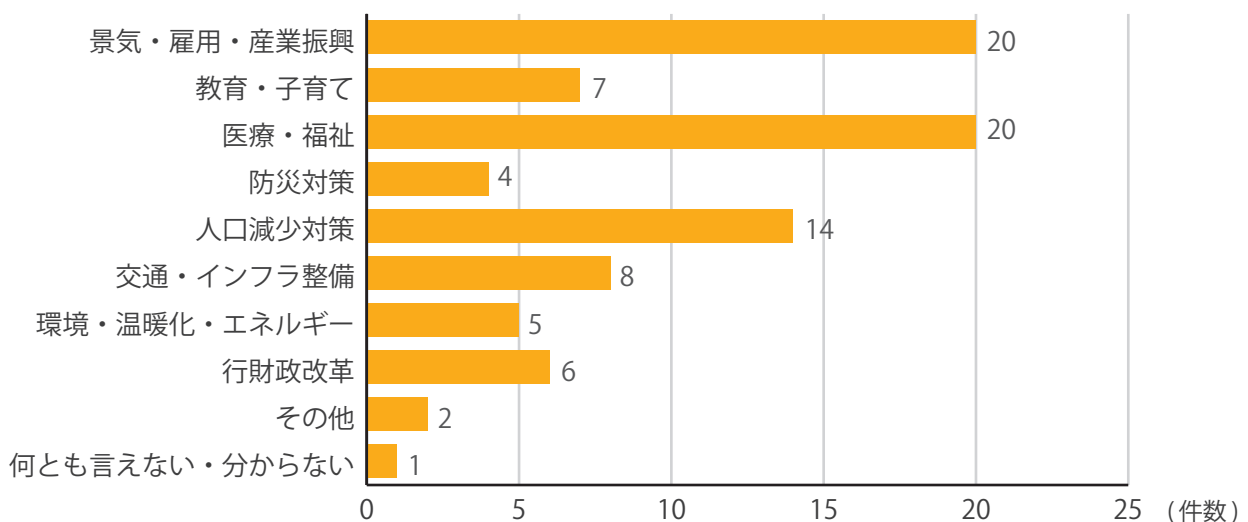
現状把握

人口：6,311人・高齢化率：23.8%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
10年間の町の変化、現状に対する分析について		○			
少子高齢化対策について		○			
企業支援、ビジネスマッチングについて		○			○
不法投棄対策、環境美化活動について		○	○	○	
みのわ未来委員会の年齢構成と、計画の見直しについて		○			
防犯対策と監視カメラの設置について		○			
Iターンの促進について		○			

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

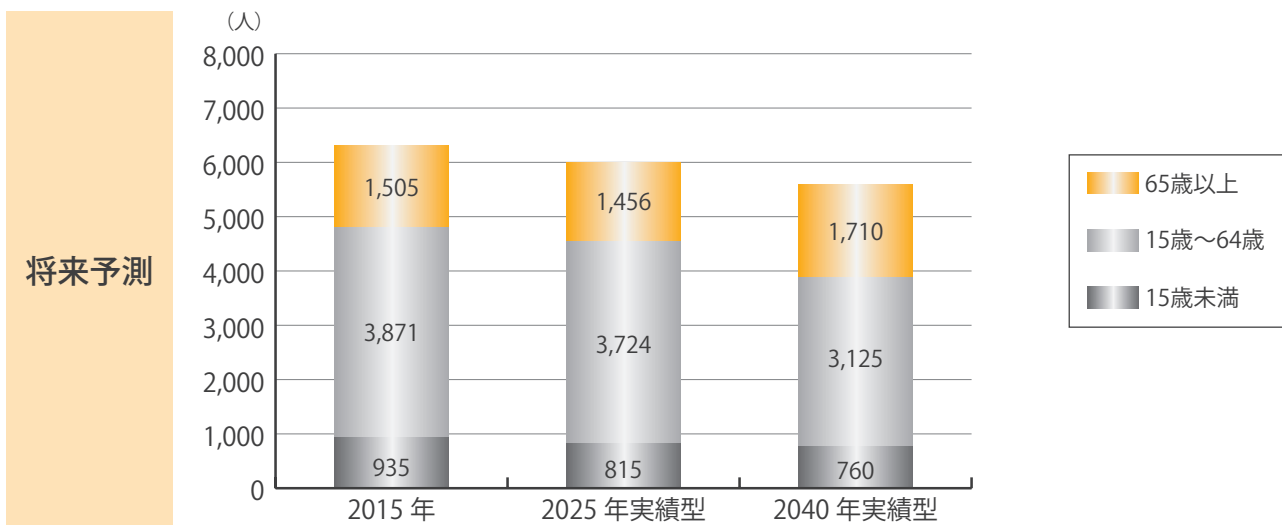
- ・人数が多く、常会も39常会と多い（良い所でもあり、課題でもある）
- ・複数の常会で、企画専門部門を設置して行事等の運営に工夫
- ・常会対抗の区民スポーツ大会や区民夏祭りの実施
- ・深沢鎮火祭や秋葉三尺坊などが、防災意識高揚の一助となっている
- ・保育園の保護者など、同世代のネットワークはある
- ・70歳以上の独り暮らし宅への訪問事業を実施
- ・学校や保育園など生活に密着した公共施設が集中し、子育てしやすい環境
- ・新規転入者が多く、中山地区では人口が増えている

#### ○課題

- ・常会ごとに事情や伝統が違い、人数が多いことで区全体でのまとまりが困難
- ・行事や区の日程が固定しているので、調整しにくく、施設確保も難しい
- ・分館活動も、役員が一気に入れ替わるため事業継承が難しい
- ・新規転入者には地域の慣習が伝わらず、行事へも参加しづらい
- ・世代間の交流が少なく、昔ながらの慣わしや行事、文化が継承できない
- ・町の指導による冠婚葬祭の簡素化や、子ども行事の簡素化で、隣組、子どもと地域などの交流機会が失われている
- ・親の過干渉や、地域行事への不参加で、子どもの主体性を育てる機会減少
- ・避難場所が役場であり、高台のため高齢者には避難が困難

#### ○区としてできる取組み

- ・区の発展のために、現状を踏まえ、新しいものを少しずつ取り入れる
- ・規模の大きさを活かした常会活動中心の取組みを区が支援する
- ・サークル活動を通じて子どもたちに地域のことを伝える



#### 課題整理

- 常会ごとに事情・課題があり、区民の生活様式も多様化しているため、区を中心とした交流には限界がある
- 人付き合いが保育所や学校の保護者間等によることが多く、幅広い世代で交流する場が少ない
- 進行する高齢化を見据え、安全安心等、暮らしやすさの確保が必要

#### 主な取組み

- ・常会ごとの取組みを尊重し、区のまとまりを構築するとともに、町との連携を進めます
- ・子どもを通じたお付き合いや幅広い世代との交流など、分館活動やサークル活動等を推進します
- ・高齢化社会に対応するため、地域の支え合いにより地域の安全を築きます

## 区の将来像

木下区は、南宮神社や鹿頭行列、芝宮のケヤキ、帯無川上流のブナ林に代表されるように歴史・文化や自然の資源が数多くある地域です。また、山車飾保存会をはじめとした様々な自主的サークルや公民館活動などが行われ、区民の交流の場が数多くあります。

これまで人口増加により、大きな区になりましたが、近年ではご近所付き合いの減少など人とのつながりが弱くなっている傾向から、災害時などへの対応が心配されます。

多くの人の努力で長年受け継がれてきた伝統行事や様々な活動についても、少子高齢化によって継続することが困難になることが推測されますが、豊富な人材の活用により行事や活動を継続し、また地域の宝である子ども達へ伝統や文化を伝えています。

私たち木下区民は、これからも豊かな自然の下、伝統と文化を大切に人とのつながりを深め、子ども達を区民全体で育み、全ての人々が元気で暮らせる、人の和があふれる区を目指していきます。

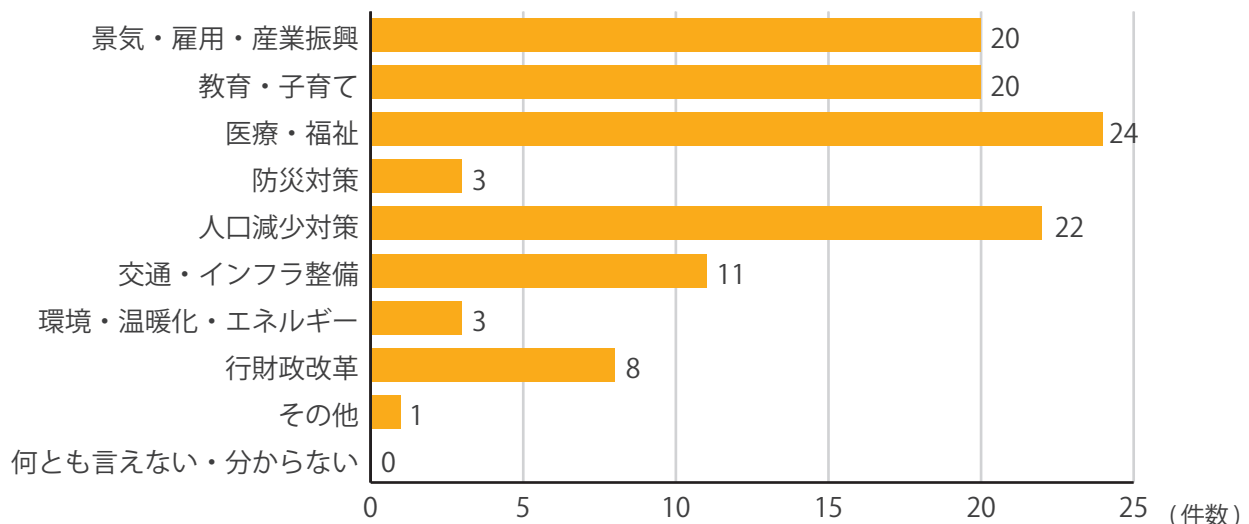
## 現状把握

人口：5,535人・高齢化率：28.7%（2015.4.1現在）

## ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
多目的施設の建設について		○			
障がいがある方も含めた地域支え合いシステムについて		○	○	○	○
区、常会への加入促進について		○	○	○	
健康増進、介護予防について		○			
木下北保育園のケヤキについて	○	○			
町の情報発信について		○			
保育園の建て替えについて		○			
まちづくりにおける町と区との関係について		○	○		

## ②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

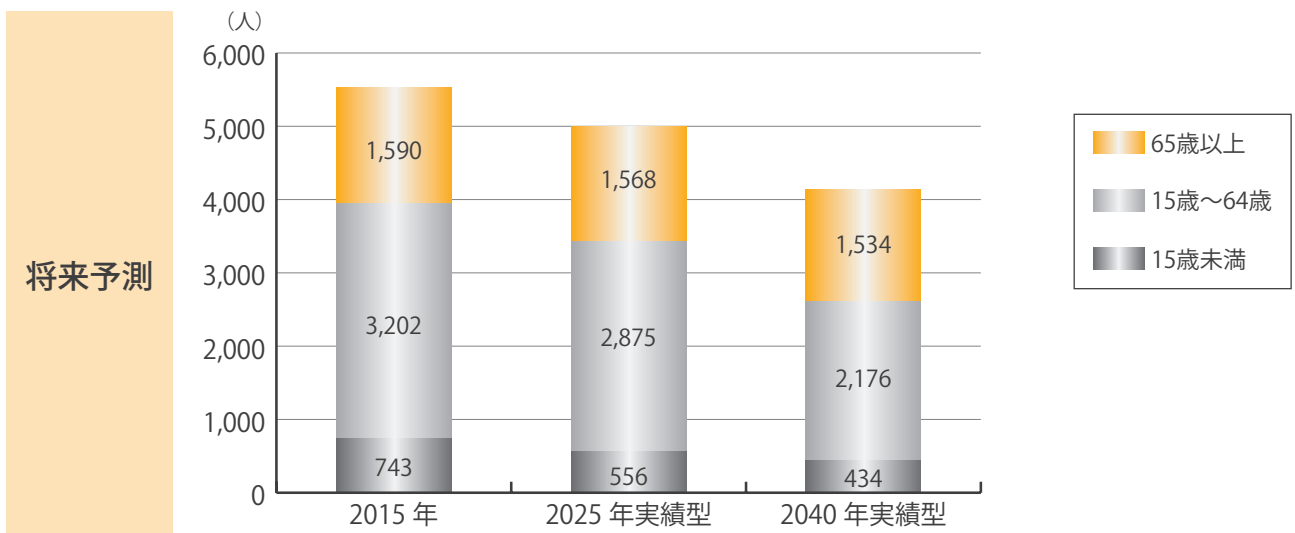
- ・人口増加により、常会や区が大きくなった
- ・お付き合いが減少している
- ・子ども達はきちんとあいさつをする
- ・行事運営者が高齢化してきている
- ・予備消防のメンバーが増えている

#### ○課題

- ・ご近所や世代間での人とのつながりにくさによる緊急時の対応
- ・少子高齢化により、常会・区行事継続の難しさ
- ・地区役員の継続が難しい
- ・空き家の増加による区や地域の雰囲気悪化
- ・人口対策としての宅地・職場・雇用の不足

#### ○区としてできる取組み

- ・常会やクラブ、サークル活動への加入促進を図る
- ・あいさつ運動などによる区内の良好な雰囲気作り
- ・井戸端会議のような、人がつながるための活動や取組みの検討
- ・公民館、集会所の活用
- ・支え合いマップの活用
- ・人を活用して区、町へつなげる活動や支援
- ・交通手段の充実などで行事や活動への参加を促進する
- ・後継者育成の継続
- ・地区役員のあり方についての見直し
- ・暮らしやすさを伝えることでの若者のリターン増加



#### 課題整理

- 近所のお付き合いの減少に伴う災害時などへの対応
- 行事や活動が盛んだが、参加する人が限られている
- 少子高齢化により、資源の保全、行事・活動の継続困難が予測される

#### 主な取組み

- ・ご近所付き合いで絆を深め、災害時にも対応できる区を目指します
- ・多くの人が参加しやすいよう、行事や活動の取り組み方・あり方の工夫をします
- ・豊富な人材の活用により、資源や行事・活動が維持できる仕組みをつくり上げます

## 区の将来像

黎明の東駒ヶ岳から昇る初日の出、冬の夕焼けに赤く染まる仙丈ヶ岳、夏の天空に輝く満点の星、澄んだ空気と樹林の緑の中を流れる清冽な水、富田区には心を癒す雄大な風景と恵まれた豊かな自然があります。

私たちは、小さい区でありながらも、お祭りや運動会などの行事や地域の集まり、ご近所付き合いなど人と人とのつながりを大切に暮らしやすさをつないできました。

少子高齢化により、区内でも健康が心配されるお年寄りの存在や子ども達の育成が課題となっています。

私たち富田区民は次代を担う子ども達を行事や自然とのふれあいを通じて地域で育て、これまで地域を担ってきた高齢者に対しては尊敬の念を忘れず、地域や区で支えていく暮らしやすい愛情があふれる区を目指します。

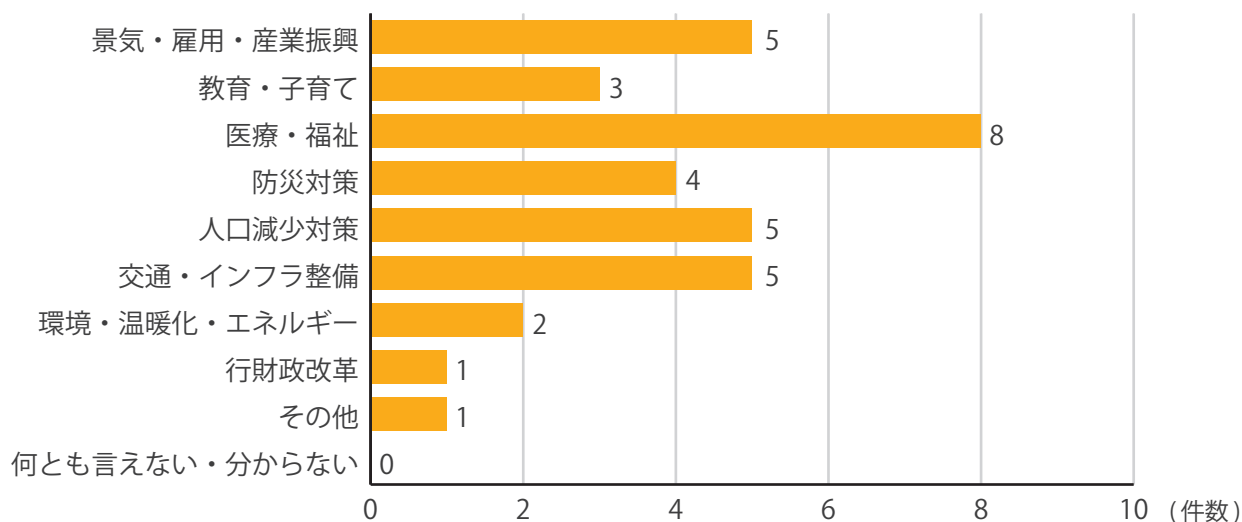
## 現状把握

人口：404人・高齢化率：28.8%（2015.4.1現在）

## ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
農振指定の除外と土地利用について	○	○			
農業に対する助成制度について		○			
健康、長生きのための取組みについて		○	○	○	
西県道の整備改良について	○	○			
セーフコミュニティの取組みについて			○		
消防費の徴収額について			○		
山際の水利確保と水圧について		○			

## ②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

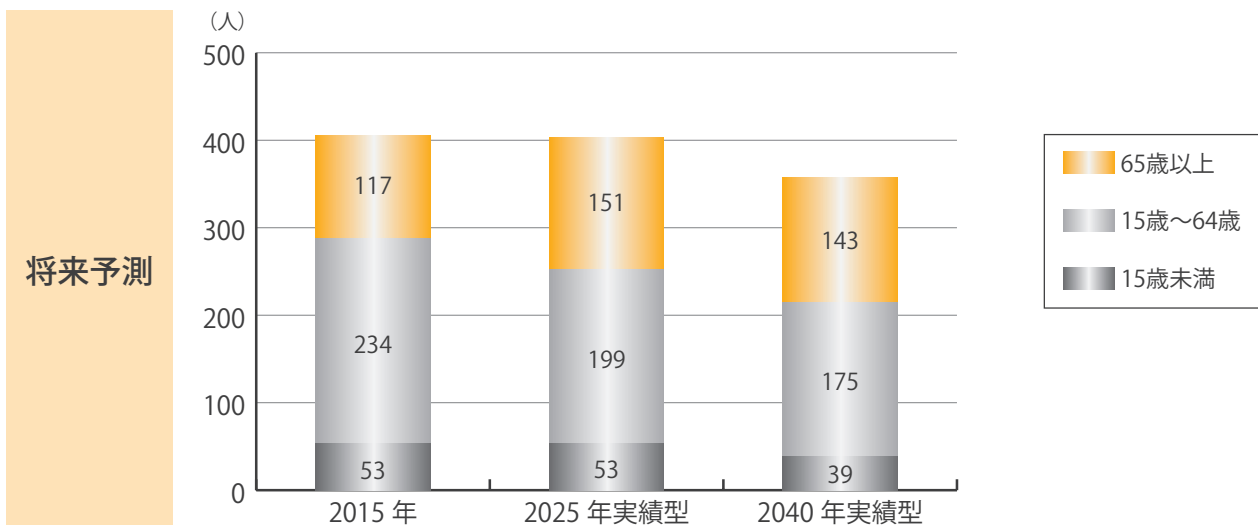
- ・近所で野菜をお裾分けしながら、高齢者などへの声掛けをしている
- ・区を越えた友達付き合いもある（ながたの湯で町外の人と）
- ・子ども達の熱中するものが変わってきている（野球、習い事）
- ・安全な区としてセーフコミュニティの推進が必要となる

#### ○課題

- ・行事に出てくる人が同じ顔ぶれ
- ・プライバシーの観点から、高齢者などの状況が把握しにくい
- ・高齢者・認知症の方への対応が難しい
- ・子どもの中にリーダーシップをとる人がいない
- ・富田だから自然が豊かとは言い切れない
- ・行事や役を担う人手の減少
- ・暮らしやすいコミュニティや施設が必要

#### ○区としてできる取組み

- ・一人暮らしや認知症の高齢者へは声を掛けて顔を見る
- ・冬場の雪かきを手伝う
- ・子どもには集まって色々なことを体験させる
- ・子ども達と一緒に自然遊びをする
- ・暮らしやすいコミュニティや施設を区として考え整備する



#### 課題整理

- 一人暮らしや認知症の高齢者増加に対する対応
- 豊かな自然を活かした、主体性が芽生える子どもの育成
- 行事に出てくる人の顔ぶれがいつも同じ

#### 主な取組み

- ・高齢者世帯に対しては地域や区で状況を把握し、近所や地域で雪かきなどの助け合いを推進します
- ・行事への参加や自然とのふれあいを通じ、区民全員で子どもを育成する機会をつくれます
- ・区民の行事参加者が増加するよう内容の変更や取り組み方を工夫します

区の将来像

中曽根区には江戸時代から続く獅子舞や権現桜と呼ばれ親しまれている樹齢 1000 年のエドヒガン、夏になると子ども達のカブトムシ捕りでにぎわう北の林など歴史文化や自然に恵まれ、災害も少ない地域です。

また、いざという時にはお互いを助け合う、開拓地の精神を受け継いで人とのつながりを大切にしてきました。

近年では、高齢化が進み、人とのつながりの希薄化や区役員の担い手不足が課題となっていますが、伝統行事や作業を区民交流の大切な場と捉え、継続する努力を続けています。

私たち中曽根区民は、小さい区としての強みを活かし、誰とでもあいさつを交わし、家族のように人とのつながりを大切に、笑顔でいられる心温かい区を目指していきます。

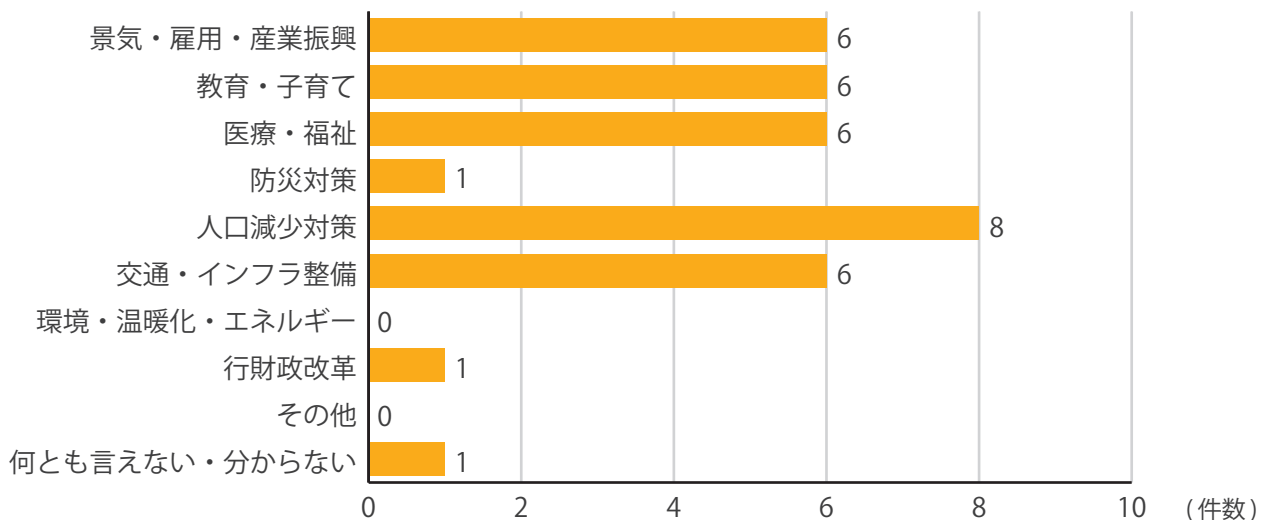
現状把握

人口：340 人・高齢化率：25.3%（2015.4.1 現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
町道 630 号線の整備について		○		○	
人口政策としての土地利用について		○			
ゴルフ練習場跡地利用、企業誘致について		○			
産科医院、助産所の誘致について		○			
地区役員の担い手不足について			○	○	
区費等の負担について			○		
地方創生について		○	○		
区内神社の修繕について			○		

②町政アンケート





### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

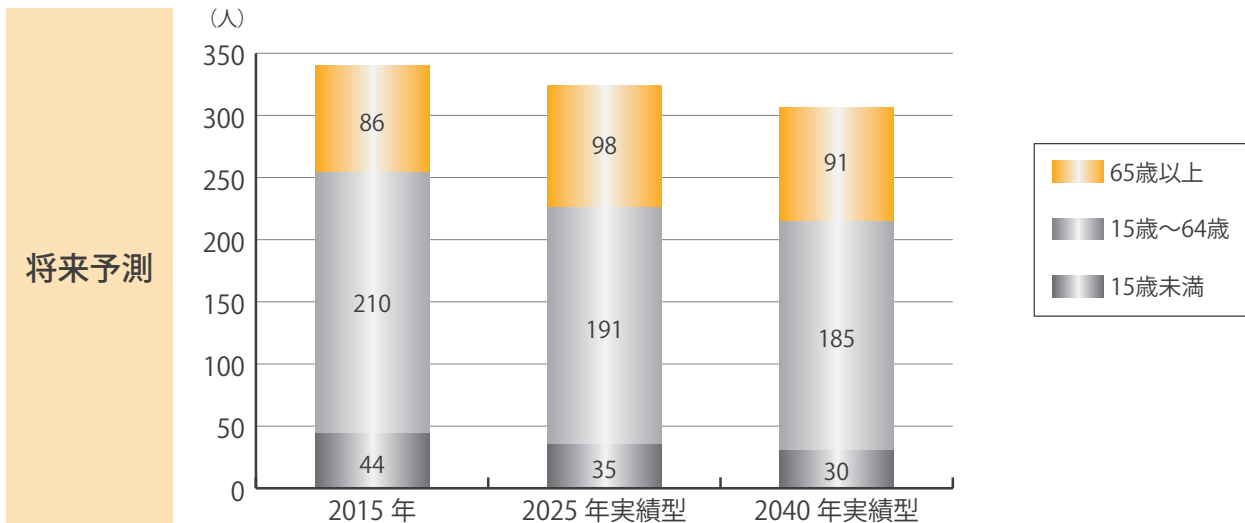
- ・近くに住みたいと思っている家族はいる
- ・跡取りが家を建てる時は区費・賦役の免除をしている
- ・女性の交流機会はある
- ・温泉で区外の人と交流がある
- ・酪農経営や営農組合の活動などの成果で荒廃農地は少ない

#### ○課題

- ・後継者が中曽根に帰ってこない
- ・住宅地の確保が必要
- ・農業振興地域のため、住みにくさを感じることもあり、住宅建築も困難
- ・農業後継者の不足により、耕作放棄地の増加が心配される
- ・空き家、空き家予備軍がある。また空き家の利用が困難となっている
- ・高齢者が増加し、外出できない人や交流しない男性高齢者も増加
- ・地区役員・消防団などの担い手が不足
- ・区費の負担が大きい
- ・獅子舞など伝統行事や作業の継続が困難になってきている

#### ○区としてできる取組み

- ・身内を大事にしながら外の人にも来てもらう
- ・住みたい人を逃さないように取組みなどを検討する
- ・区の役員活動を人との出会いの場としても活用する
- ・跡取りが家を建てる時は区費・賦役を免除する



#### 課題整理

- 区内への移住希望家族の確保
- 高齢者世帯の増加、交流の希薄化
- 伝統行事や作業などの継続の困難

#### 主な取組み

- ・跡取りが区へ住む場合は区費・賦役免除の制度を続けます
- ・高齢者の状況を把握し、災害などの非常時に備えます
- ・行事や作業を区民交流の場として継続できる仕組みを検討します

区の将来像

三日町区は、大自然と市街地、新しい活力と古くから伝わる資源や文化が共生した魅力あふれる区となっています。

三日町区は天竜川を挟み、東側は天竜川沿いに農地・住宅地が開け、河岸段丘を登ると、そこには歴史と暮らしが息づく自然豊かな農村風景が広がり、その先には信州のサンセットポイント100選に選ばれるほど雄大な景観を誇る萱野高原へと続いています。西側は、国道153号バイパスの開通により近年大きな発展を遂げており、商工業が集積し賑わいと活力ある地域になっています。

歴史と結びついた資源に恵まれ、御旅所、御府社、秋宮は、区民や氏子により伝統と文化を守り伝えてきました。毎年夏に開催されるサマーナイトフェスティバル（納涼祭）は、区民をはじめ帰省客など多くの人々に親しまれる行事になっています。

私たち三日町区民は、豊かな自然や伝統文化を守り、次世代に伝えていくとともに、区の行事や活動、子育てを通じて繋がる人と人とのふれあいを大切に、全ての区民が元気にいきいきと暮らせる区を目指します。

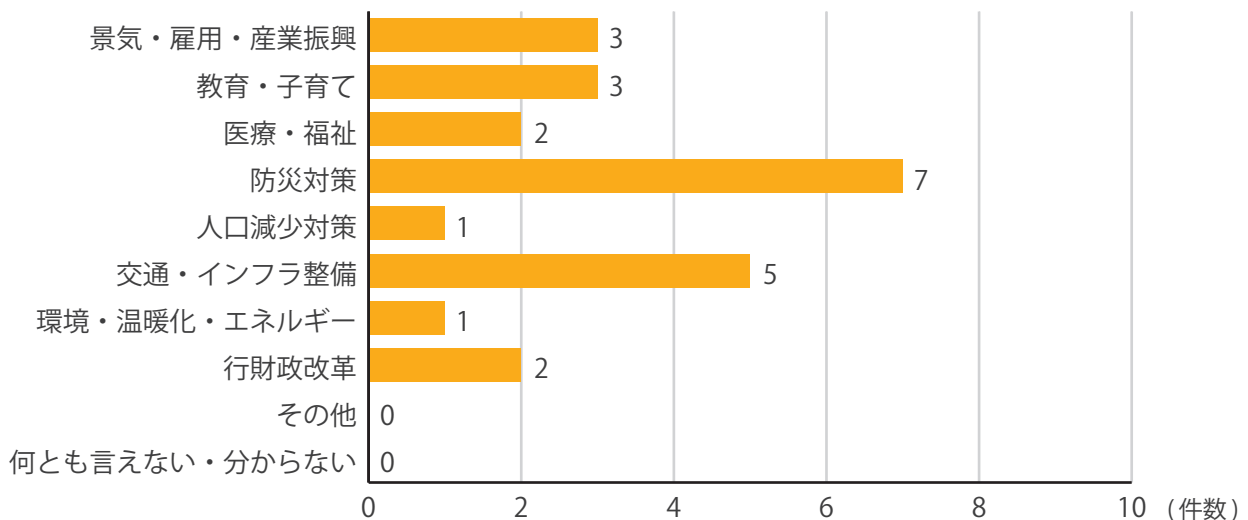
現状把握

人口：1,017人・高齢化率：32.3%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
公民館の建設について		○			
通学路の安全確保について		○			
道路路面の改良について		○			
土砂災害警戒区域について	○	○			
道路側溝について		○			
小学校の裏山について		○			
空き家対策について		○	○	○	

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

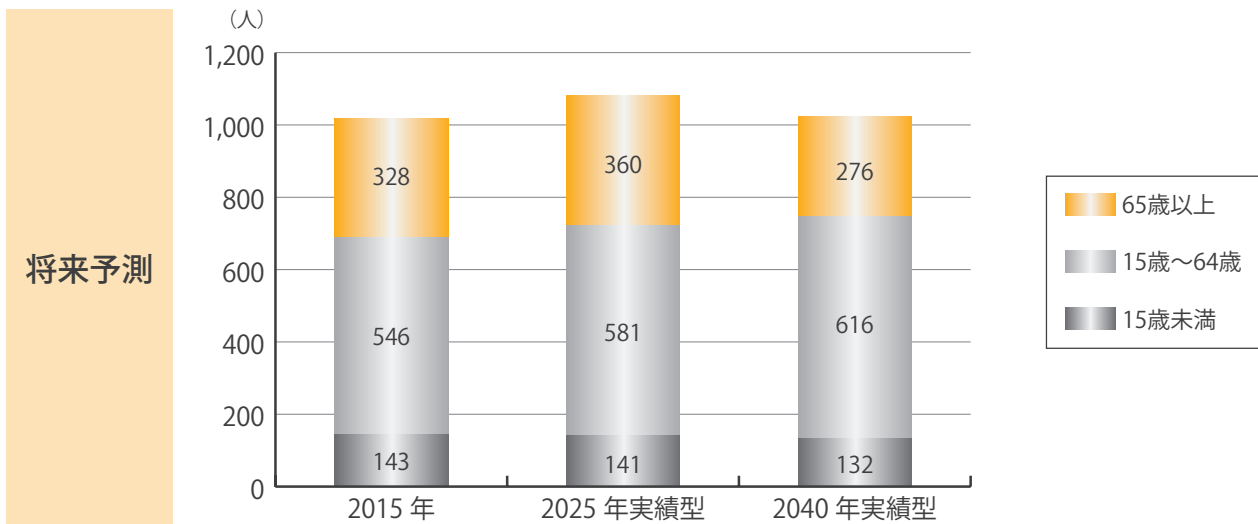
- ・田中城、みのわ園は人口増
- ・お年寄りがいると近所付き合いもある
- ・女性は近所付き合いが盛ん（いきいきしている）
- ・子育てを通したお母さんたちの繋がりがあ
- ・小学校までは同じ顔ぶれなので、どこの子どもかすぐわかる
- ・都会から移住する人は、地元の人が考える基準とは違うものを選ぶ
- ・田中城はほぼ全戸が区に加入

#### ○課題

- ・田中城、みのわ園以外は人口減少
- ・居住戸数が減少している（空き家増加）
- ・後継者のいない高齢者世帯の増加
- ・住民の高齢化
- ・昔は近所付き合いがあったが、今はあまりない（特に若い世代）
- ・区役員の後継者不足
- ・常会未加入者がいる

#### ○区としてできる取組み

- ・区として取り組んでいる行事や活動は、できる限り残す
- ・多くの人が集まる機会を大切にする



#### 課題整理

- 区役員の高齢化や後継者不足による区民の負担増
- 新規移住者や若い世代の近所とのつながりの希薄化
- 常会未加入者への対応

#### 主な取組み

- ・区役員や区民の負担を考慮し、継続できる取組みを行います
- ・子育てや行事を通じ、ふれあう機会を大切にします
- ・常会未加入者の人にも交流の機会を設け、区の魅力を伝えます

## 区の将来像

福与区は、中央アルプス、南アルプスを見渡し、眼下に伊那谷を一望する優れた眺望景観に恵まれた自然豊かな地域です。美しい夕日が稜線に沈む姿、冬晴れの朝の澄んだ空気に映える山並みは、昔から変わらずに私たちの生活に潤いを与えてくれます。

私たちは、この地で先人たちから受け継がれた伝統や文化、温かく人を包みこむ風土を大切に育んできました。現在では、区加入率は町内一を誇り、近所、常会、世代を超えたまとまりのある暮らしやすい区へと成長しています。

私たち福与区民は、来るべき人口減少、少子高齢化社会を念頭に、次のような区を目指します。

- 1 誇るべき自然や景観を守り次世代へと伝えます。
- 2 互いに助け合い支え合うよき伝統を、世代を超えて守り繋げていきます。
- 3 諸課題には区民の英知を結集して取り組み「福」がもたらされる区を目指します。

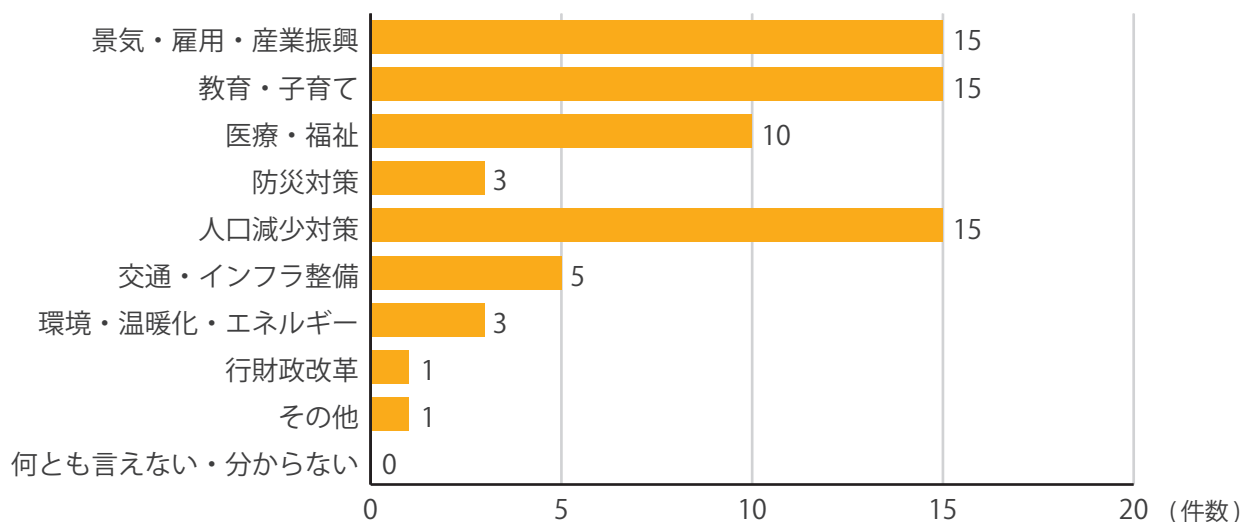
## 現状把握

人口：779人・高齢化率：32.7%（2015.4.1現在）

## ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
区名を活用した取組みについて		○	○		
地域資源の観光への活用について		○	○		
人口政策としての土地利用について		○			
通学路の交通安全対策について		○			
萱野高原の活用策について		○			
フェンシングによるまちおこし		○			
未婚者への結婚支援策について		○			
学童保育の環境改善について		○			
高齢者の健康づくりのための環境整備		○			

## ②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

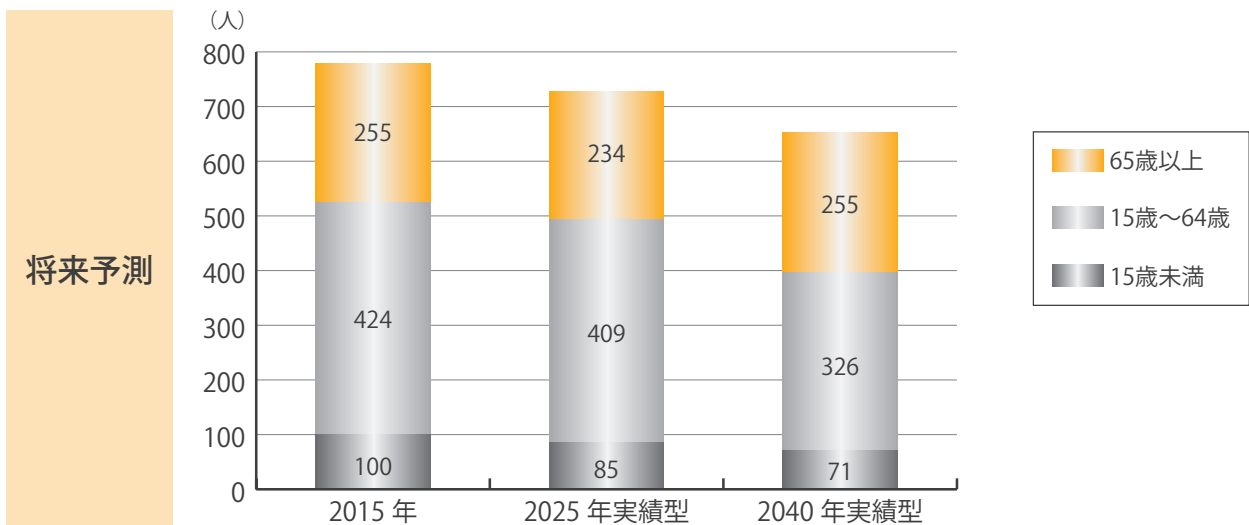
- ・区への加入率は 100%
- ・人口減少については常会によって様子が異なる

#### ○課題

- ・子どもが少ない、戻ってこない、若い夫婦が少ない、未婚者が多い
- ・高齢化による障害（区役員の担い手確保や行事や活動の継続）
- ・世代間や移住者とのコミュニケーションが十分でない
- ・まとまりがありすぎるため、わずらわしさを感じることもある
- ・買い物弱者が出てきている
- ・女性の声が反映されにくい

#### ○区としてできる取組み

- ・今までやってきたことを繋いでいく
- ・女性が活動などに参加しやすい取組みをする



#### 課題整理

- 世代間や移住者とのコミュニケーション不足
- 区・常会が主催する行事、活動のあり方と女性の声の更なる反映
- 福与区の良さや魅力の積極的な発信

#### 主な取組み

- ・福与区の宝である人のつながりを次世代へとつないでいくため、区民が集い活動する場を大切にしていきます
- ・より多くの区民が参加・参画できる行事や活動にしていくために、幅広い区民の声や女性の目線からの声を大事にして取り組みます
- ・福与区の良さや魅力を再発見するとともに、町内外へ向けて積極的にアピールします

区の将来像

長岡区は、多様な作物が実る豊かな土地と、上伊那各地に飲料水を供給する「水を生む山」があり、数百年にわたり町内外の人に愛されてきた十沢の「お地蔵様」をはじめとする歴史的・文化的資源が数多く残されている地域です。

これまで、区民の力で資源を守る活動、お祭りなどの伝統行事や分館活動の他、子ども見守り隊、一人暮らしのお年寄りに対しての声掛けといった取組みも行ってきました。

ただ、近年では世代間の意識の差や価値観の多様化、少子高齢化などにより、地域の宝として受け継がれてきた行事・取組み・資源などを守り伝えることは大きな負担となっているため、地域の宝のあり方や区の制度の見直しについて検討していく必要があります。

今後はさらに少子高齢化が進むと予測されていますが、今まで築き上げてきたご近所付き合いなど人のつながりを大切にし、年齢や立場に関係なく区民全員が活躍でき、いつまでも健やかに過ごせる、暮らしやすい区を目指していきます。

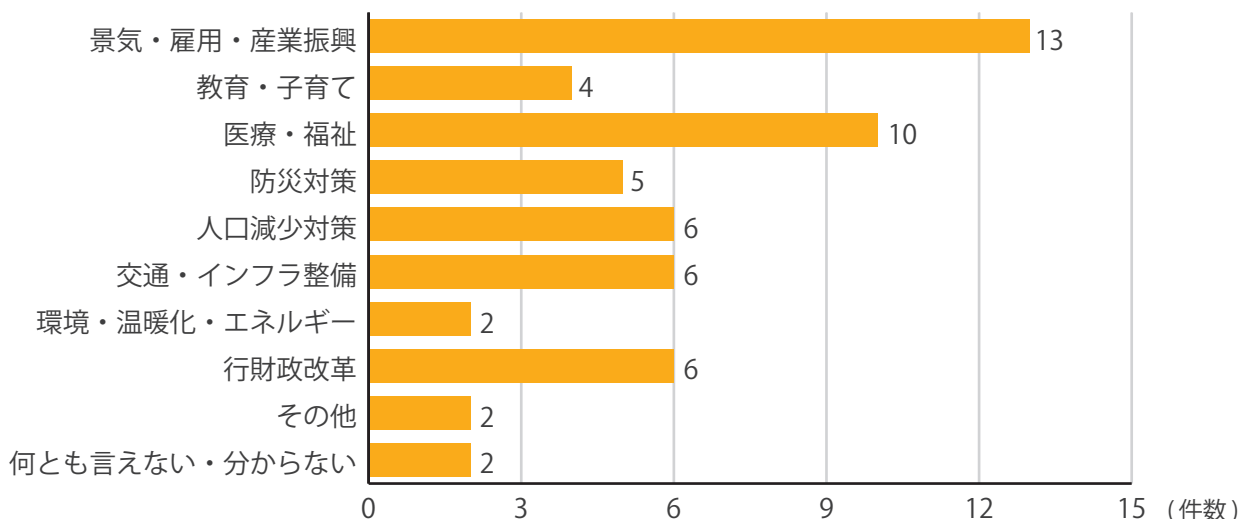
現状把握

人口：1,226人・高齢化率：32.4%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
消防団員の確保について		○	○		
区、常会の加入に関する町の働きかけについて		○	○		
地名の旧表記への変更について		○			
東部診療所の経営について		○			
町のピーアールの推進について		○			
若者の定住促進について		○			

②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

- ・お祭りなどの伝統行事が残っている
- ・歴史などの資源が多い
- ・十沢のお地蔵様は区民全員が会員として管理
- ・高齢者が元気
- ・常会へはほぼ加入している
- ・分館でのスポーツ活動が盛ん
- ・上伊那各地に水道水を供給する水と水を育む山がある
- ・土地が豊かで多様な作物が実る

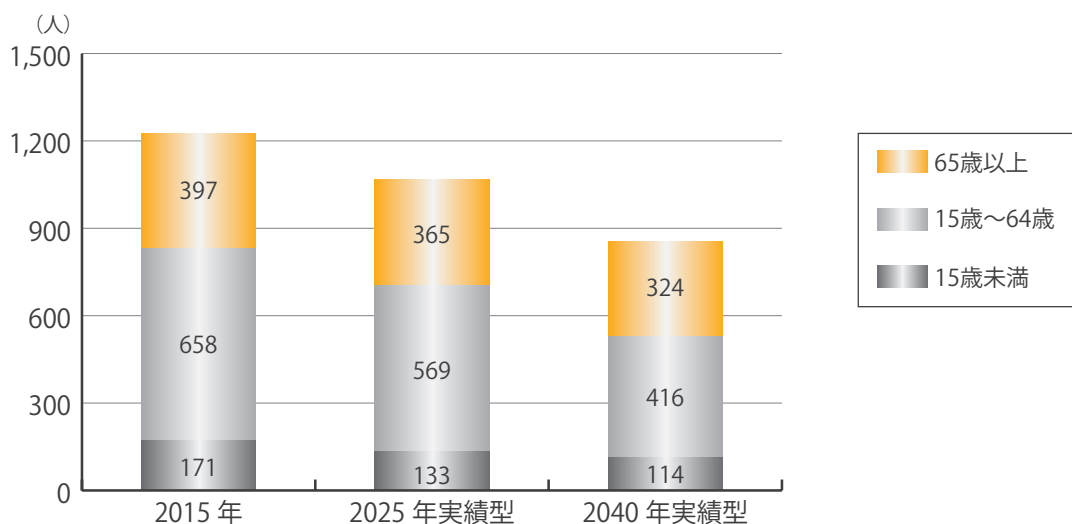
#### ○課題

- ・分館活動は高齢化により難しくなっている
- ・高齢者の単独世帯が増えているがふれあいマップがうまく活用できない
- ・区へのUターンが少ない
- ・働く場所がない
- ・常会の活動は参加するが区の活動はあまり参加しない
- ・町からの仕事が多い
- ・消防など若い人同士の交流が少ない
- ・年配者と若い人の意識が異なる
- ・子どもが遊べる場所が少ない
- ・大人がコミュニケーションを減らしている
- ・負担の増加により、区の資源を守ることが困難になってきている

#### ○区としてできる取組み

- ・個々に近所のお年寄りを気に掛けている
- ・子ども見守り隊
- ・山などの資源の保全活動のあり方を検討する

#### 将来予測



#### 課題整理

- 高齢化率 30%以上で人口減少が進行
- 高齢者同士の付き合いはあるが、世代を超えた付き合いがない
- 地域の宝とされてきた山・水などの管理についての負担が増加

#### 主な取組み

- ・ご近所同士で一人暮らしのお年寄りを気に掛け、区内で状況を共有します
- ・世代間の交流の場を守り、近所付き合いを大切にすることで、災害時でも対応できる準備を整えます
- ・地域の宝である山・水の管理のあり方や取組みを検討します

区の将来像

南小河内は、先人たちが築き上げた暮らしと伝統が色濃く残り、豊かな水と自然に恵まれた暮らしやすい地域です。

区内を流れる大堰は約400年の歴史を誇り、もみじ湖を水源とする沢川から取水した水は、農業用水・生活用水として区内の水田を潤し、区民の生活を支え続けています。「おさんやり」は大堰にまつわる伝統行事であり、約300年もの間、区民の心の支えとして世代を超えて受け継がれてきました。中世の歴史を今に伝える上ノ平城跡は、上ノ平城跡の会により今も美しい景観が残されています。

南小河内の暮らしやすさは、充実した生活基盤などの恵まれた環境の中で、区民が歴史や伝統を大切に育んできた上に成り立っています。

私たち南小河内区民は、伝統行事である「おさんやり」を子々孫々に伝え続けるとともに、先人たちが築き上げた豊かな大地を守り続けていきます。また、明るい未来へ向かい、子どもたちに親しまれ、区民誰もが暮らし続けたいと思える区を目指します。

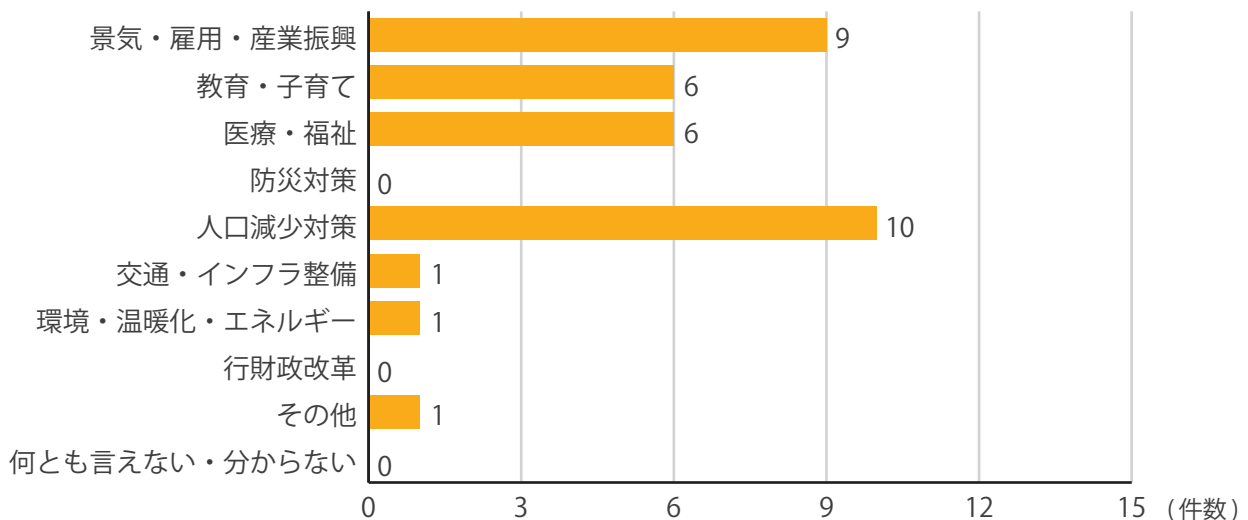
現状把握

人口：589人・高齢化率：33.6%（2015.4.1現在）

①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
農地法の転用適用基準について	○				
国道バイパスの4車線化について	○				
県道の整備について	○				
旧保育園施設の利活用について		○	○		
有害鳥獣対策について	○				
みのちゃんバスのルートについて		○			

②町政アンケート





### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

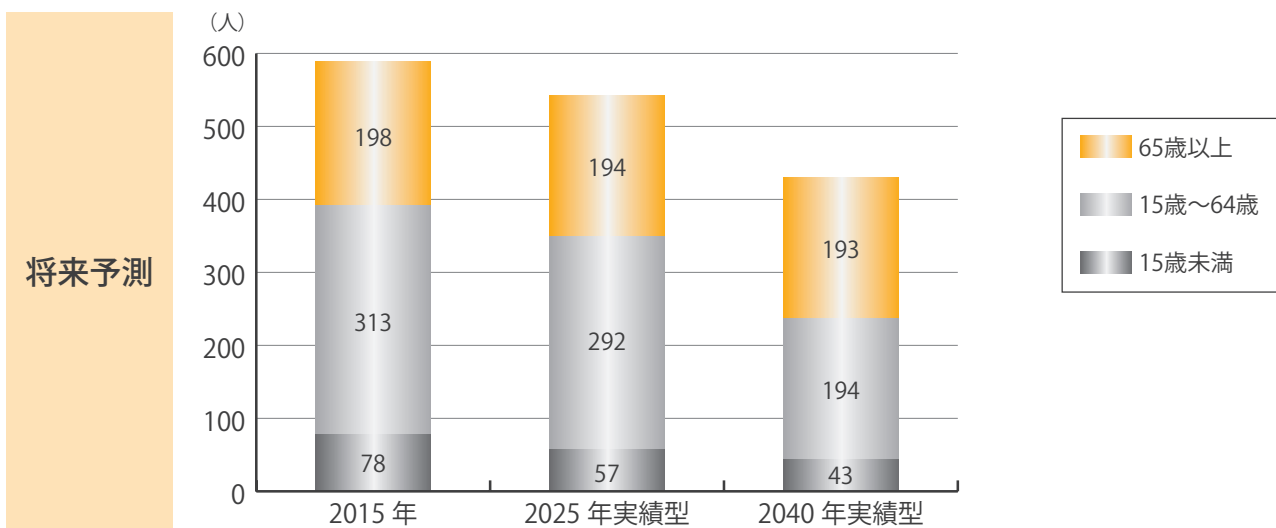
- ・子どもを対象にした活動がある
- ・隣接区と協働で行う活動がある
- ・伝統的な行事を継続している（おさんやり）
- ・区への加入率が高い
- ・通勤時間帯の交通量が多い
- ・人口構造が他地区と少し違う（親子3代で暮らす家がある）
- ・小規模宅地造成した場所は移住者が転入
- ・消防団を引退したあとに、公民館役員になる人が多い

#### ○課題

- ・世代を超えた交流は少ない
- ・中高生になるにつれ、区との関わりが少なくなる（約10年間の空白）
- ・隣近所はあいさつ程度（お付き合いの希薄化）
- ・教育施設周辺の交通安全
- ・人口減少（区の収入減につながる）
- ・区役員対象者の減少
- ・人口減少により、できなくなる行事・活動が出てくる
- ・消防団加入者の減少
- ・高齢化による買い物弱者の増加

#### ○区としてできる取組み

- ・仕組みを工夫し、行事や活動を継続
- ・元気な高齢者が、行事や活動をサポートする



#### 課題整理

- 人とのつながりの希薄化や世代を超えた交流の減少
- 少子高齢化による行事や活動の継続
- 教育施設周辺の子どもの安全・安心

#### 主な取組み

- ・公民館・消防団活動、高齢者の課外活動サポートなどを工夫しながら継続し、人とのつながりや世代間交流を維持していきます
- ・各種団体と協力し、重要な伝統行事である「おさんやり」を未来につなげます
- ・区内に保育所、小学校等の教育施設が固まっているため、子ども達の安全・安心に取り組めます

## 区の将来像

北小河内区は、住民が主体となり歴史ある地域を大切に守り育んできました。町内初のセーフコミュニティモデル地区として活動するなど、人と人とが繋がる暮らしやすい区を地域全体で築いています。

私たちの住む「むら」は自分たちで創り守る協働の気持ちを大切にし、思いやりと助け合いの心を持った地域活動と、非常時に備える自主防災活動の持続的な実現を図り、誰もが北小河内に住んでみたいとなるような、安全で快適な住みよい生活環境の創出を目指します。

また、豊かな山の自然や美しい川の環境美化を推進し、地域文化や歴史を保存・継承するとともに、未来を担う子ども達の健全な育成を多方面から応援します。

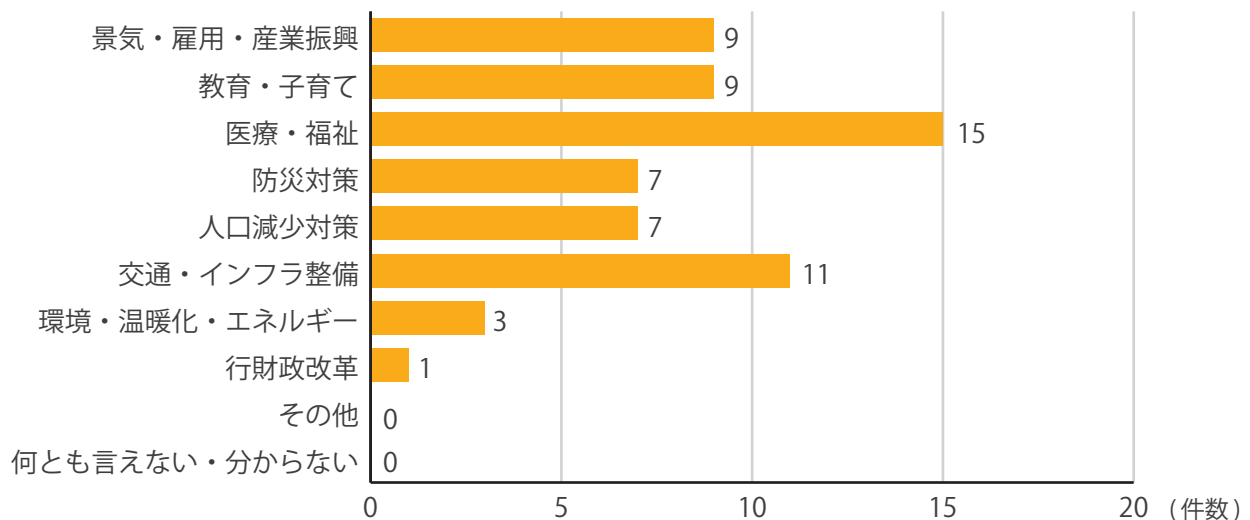
## 現状把握

人口：1,122人・高齢化率：26.7%（2015.4.1現在）

## ①懇談会で出た意見の役割分担

主な意見・課題	対応				
	国・県	町	区・地域	個人	その他
振興計画の在り方、地区別計画の策定について		○	○		
北小河内区の人口推移と要因の分析について		○			
町道整備の地元負担金について			○		
指定文化財の登録とデジタルアーカイブについて		○			
東部診療所の運営について		○			
保育園への保護者参加について		○			
みのわ祭りについて		○			
セーフコミュニティの推進について			○		
町のブランド戦略について		○			
水道インフラ整備について		○			

## ②町政アンケート



### ③区の検討作業で出された意見

#### ○現状

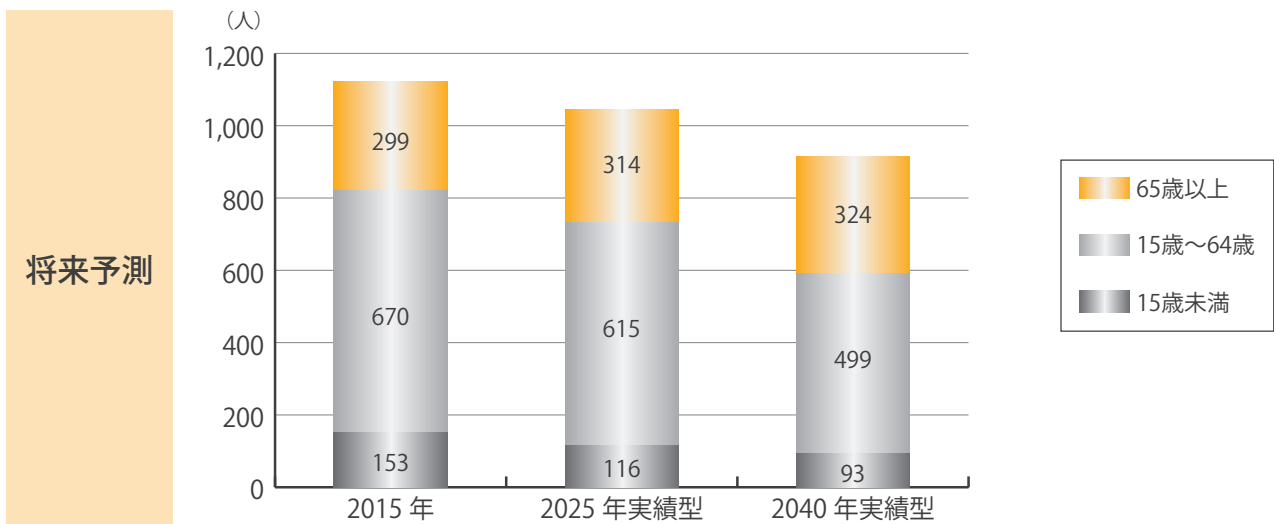
- ・農地と宅地の混在化、農地の遊休化が進んでいる
- ・山林、林野などの自然財産の放置
- ・区内には多くの歴史的文化財、伝統行事が存在する

#### ○課題

- ・災害対策、防災体制の整備と意識高揚、継承が必要
- ・住宅地造成に伴う道路整備、雨水等の排水対策の充実が必要
- ・生活用水、農業用水の安定供給対策が必要
- ・生活道路における人と車の安全な共存環境が必要
- ・住宅地の拡大による周辺環境の悪化（荒廃林や耕作放棄地の増加）
- ・文化財、伝統行事の区民への周知と次世代への継承が必要
- ・気軽に参加できる活動及びサークル作りが必要
- ・少子高齢化の進行と人口減少

#### ○区としてできる取り組み

- ・防災意識、安全意識の高揚と安心して暮らせる地域づくり
- ・地域の絆を強くし、見守り活動等子どもを中心とした防犯力を強化
- ・農地の遊休化阻止と有効活用、共有林の間伐
- ・住環境保全のため、意識の高揚と区民全体での活動の推進
- ・竹の腰公園の整備と利用促進
- ・歴史的文化財を区民に広く周知し保存継承していくよう意識高揚を図る
- ・有形、無形文化財、伝統行事の伝承を行う
- ・子育て、高齢者のふれあい等の支援
- ・公民館、長生クラブ、各種サークル、ボランティア活動の輪を広げ、気軽に参加できる活動の場づくり
- ・子育て支援サークルの育成支援、子ども達の健全育成活動の推進



#### 課題整理

- 過去の災害を教訓とした防災体制の整備、安全安心のためのインフラ整備が必要
- 荒廃林や耕作放棄地の増加に伴う自然環境、住環境の保全が必要
- 歴史ある北小河内区の文化を伝え、区民や次世代を担う子どもたちが笑顔で生活を送るため、少子高齢化や人口減少に伴う活動低下を阻止する必要がある

#### 主な 取り組み

- ・安全安心な地域を築きます
- ・自然環境を守り、暮らしやすい住環境を保全します
- ・歴史を伝え、地域の絆を育みます

区の将来像の推進、実現にあたっては、区民等の協力が不可欠なため、区民等に積極的な情報発信や情報共有が出来るような体制が重要になります。

そこで、区、区民等や町が、それぞれの立場での役割分担を明確にし、自立（自立し対等な関係）、理解（相互理解）、公開（外部に開かれた状態）の原則により連携・協働による推進体制を構築していきます。

◎区の将来像の推進体制

